

Novell ConsoleOne™

1.3

www.novell.com

ユーザガイド



Novell®

法的事項

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本製品を米国またはカナダから輸出する際には、事前に米国商務省の輸出許可が必要となります。

Copyright© 1998-2001 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

U.S. and Foreign Patents Pending.

Novell, Inc.
1800 South Novell Place
Provo, UT 84606
U.S.A.

www.novell.com

ConsoleOne 1.3 ユーザガイド
2001 年 7 月

オンライン ドキュメント: 本製品とその他の Novell 製品のオンラインマニュアルにアクセスする場合や、アップデート版を入手する場合は、<http://www.novell.com/documentation/japanese> を参照してください。

Novell の商標

ConsoleOne は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NDS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NDS Manager は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

ZENworks は、米国 Novell, Inc. の商標です。

他社の商標

サードパーティ各社とその製品の商標は、所有者であるそれぞれの会社に所属します。

目次

このガイドについて	11
マニュアルの表記規則	12
1 はじめに	13
このリリースで新たに追加された機能	14
ConsoleOne の特長	15
ユーザ補助の改善	17
他の製品からのスナップイン	18
ConsoleOne のインストールと起動	18
Windows	19
NetWare	22
Linux	23
Solaris	26
Tru64 UNIX	28
2 管理の基本	31
オブジェクトの参照と検索	32
eDirectory ツリーにログインする	33
eDirectory ツリーからログアウトする	33
DNS フェデレーションを使用して eDirectory コンテキストにアクセスする	33
右側の画面にあるオブジェクトにジャンプする	34
ビューから無関係のオブジェクトをフィルタする	34
識別名でオブジェクトを検索する	34
名前とタイプでオブジェクトを検索する	34
プロパティ値でオブジェクトを検索する	35
オブジェクトの作成と操作	35
オブジェクトを作成する	36
オブジェクトのプロパティを変更する	37
複数のオブジェクトを同時に変更する	37
オブジェクトをリネームする	38
オブジェクトを移動する	38
オブジェクトを削除する	39
オブジェクトプロパティの編集	39
一般的な機能	39
複数のオブジェクトを同時に編集する場合にだけ関連する機能	40
プロパティページをカスタマイズする	41

オブジェクトのコンテナへの格納	41
組織オブジェクトを作成する	42
部門オブジェクトを作成する	42
地域オブジェクトを作成する	43
国オブジェクトを作成する	43
オブジェクトの別名を作成する	43
ビューのカスタマイズ	44
画面左側の最上位オブジェクトを設定する	44
右側の画面のビュータイトルを表示または非表示にする	45
右側の画面の列幅を調整する	45
3 ユーザアカウントの管理	47
ユーザアカウントの作成	47
ユーザオブジェクトを作成する	48
ユーザテンプレートを作成する	48
オプションのアカウント機能の設定	49
ユーザのネットワークコンピューティング環境を設定する	49
別途用意されているログインセキュリティを設定する	49
ユーザの NetWare サーバ使用アカウントを設定する	50
ログインスクリプトの設定	51
ログインスクリプトを作成する	51
プロファイルをユーザに割り当てる	52
リモートユーザのログイン時間制限	52
4 権利の管理	53
明示的な権利の割り当て	54
NetWare ファイルシステムへのアクセスをリソース別に制御する	54
NetWare ファイルシステムへのアクセスをトラスティ別に制御する	55
Novell eDirectory へのアクセスをリソース別に制御する	56
Novell eDirectory へのアクセスをトラスティ別に制御する	57
同等セキュリティの付与	58
メンバーシップにより同等セキュリティを付与する	58
同等セキュリティを明示的に付与する	59
オブジェクト固有の eDirectory プロパティに対して管理者を設定する	59
継承の阻止	60
NetWare ボリュームのファイルまたはフォルダへの権利継承を阻止する	60
eDirectory オブジェクトまたは eDirectory プロパティへの権利継承を阻止する	61
有効な権利の表示	61
NetWare ボリュームのファイルまたはフォルダに対する有効な権利を表示する	62
eDirectory オブジェクトまたは eDirectory プロパティに対する有効な権利を表示する	62
NetWare 権利について	62
権利の説明	63
権利の発生源	64
NetWare による有効な権利の判断	64

5	ロールベース管理の設定	67
	ロールベースサービスの設定	67
	eDirectory ツリーに RBS スキーマ拡張をインストールする	68
	RBS 役割の定義	68
	RBS 役割オブジェクトを作成する	68
	RBS 役割が実行できるタスクを指定する	69
	RBS 役割のメンバーシップとスコープの割り当て	69
	独自のアプリケーション用 RBS オブジェクトの作成	70
	RBS モジュールオブジェクトを作成する	72
	RBS タスクオブジェクトを作成する	73
	eDirectory 以外のスコープを表すオブジェクトを作成する	74
6	Novell eDirectory スキーマの拡張	75
	独自のオブジェクトクラスとプロパティの定義	76
	カスタムプロパティを定義する	77
	クラスにオプションのプロパティを追加する	77
	独自のオブジェクトクラスを定義する	77
	補助クラスの定義と使用	78
	補助クラスを定義する	78
	補助クラスのプロパティでオブジェクトを拡張する	79
	補助クラスのプロパティで複数のオブジェクトを同時に拡張する	80
	オブジェクトの補助プロパティを変更する	81
	オブジェクトから補助プロパティを削除する	82
	複数のオブジェクトから補助プロパティを同時に削除する	82
	未使用のクラスとプロパティの削除	83
	スキーマからプロパティを削除する	83
	スキーマからクラスを削除する	83
7	Novell eDirectory のパーティション化とレプリカ作成	85
	パーティションの管理	86
	パーティションに関する情報を表示する	86
	パーティションを分割する (チャイルドパーティションを作成する)	87
	チャイルドパーティションをペアレントパーティションとマージする	87
	パーティションを移動する	88
	パーティションの関連性をチェックする	88
	レプリカの管理	92
	レプリカ情報を表示する	92
	レプリカを追加する	93
	レプリカを削除する	93
	レプリカを変更する	94
	選択したデータだけを複製する	94
	レプリカステータスについて	95

8	NetWare サーバリソースの管理	97
	サーバとファイルシステムの情報の表示と変更	98
	サーバオブジェクトから NetWare Management Portal を起動する	98
	NetWare サーバに関する情報を表示または変更する	99
	ボリュームに関する情報を表示または変更する	99
	ボリュームまたはフォルダの内容の詳細を表示する	100
	ファイルやフォルダに関する情報を表示または変更する	100
	複数のファイル、フォルダ、またはボリュームに関する情報を同時に変更する	100
	NetWare ボリュームのファイルとフォルダの管理	101
	ファイルやフォルダをコピーまたは移動する	102
	ファイルまたはフォルダを作成する	102
	ファイルまたはフォルダをリネームする	102
	ファイルとフォルダを削除する	102
	NetWare ボリュームで削除したファイルのサルベージとページ	103
	削除したファイルとフォルダをサルベージする	103
	削除したファイルとフォルダをページする	103
	ボリュームスペースの割り当ての制御	104
	ユーザのボリュームスペースを制限する	104
	フォルダの容量を制限する	104
	ユーザのボリュームスペース制限を解除する	105
	フォルダの容量制限を解除する	105
	ファイル管理を容易にする eDirectory オブジェクトの作成	105
	Netware サーバオブジェクトを作成する	105
	ボリュームオブジェクトを作成する	106
	ディレクトリマップオブジェクトを作成する	107
9	レポートの生成	109
	用意されているレポート	110
	eDirectory 汎用オブジェクトレポート	110
	eDirectory ユーザセキュリティレポート	111
	eDirectory ユーザおよびグループレポート	113
	レポート機能の設定	113
	スキーマ拡張機能であるレポートサービスをインストールする	114
	Novell 定義レポートカタログをインストールする	115
	Windows コンピュータに eDirectory 向けの ODBC ドライバをインストールする	115
	レポートカタログで使用されるデータソースを設定する	116
	レポートの生成、印刷、および保存	116
	レポート生成の対象となる eDirectory ツリーの要素 (コンテキスト) を指定する	117
	レポートを生成および表示する	117
	レポートを印刷する	117
	レポートを保存する	118
	レポートをエクスポートする	118
	以前に保存したレポートを表示する	118
	レポートの生成に使用するデータ選択条件 (クエリ) をカスタマイズする	118

独自のレポートの設計	119
ConsoleOne に JReport Designer を追加する	120
独自のレポートカタログを作成する	120
レポートフォームを作成または変更する	121
10 トラブルシューティング	123
ConsoleOne が誤動作する、または起動しない	124
パフォーマンスが低い	125
完全にローカルでインストールしたい	125
ログインしたい eDirectory ツリーが見つからない	125
新規作成したユーザがログインできない	125
ボリュームオブジェクトまたはディレクトリマップオブジェクトを作成できない	126
パーティション操作を中止できない	126
レポートの生成時に発生する問題	126
フィールドまたはオプションが使用不能になっている	127
既知の不具合と制限事項	127

このガイドについて

このガイドでは、ConsoleOne™ の機能、インストール方法、使用方法、およびトラブルシューティングについて説明します。

ヒント：このガイドで取り上げるのは、ConsoleOne を [Novell® Software Downloads のページ \(http://download.novell.com/sdMain.jsp\)](http://download.novell.com/sdMain.jsp) または [無償製品のダウンロード \(http://download.novell.co.jp/index.html\)](http://download.novell.co.jp/index.html) からダウンロードした場合に使用できる、ConsoleOne の中心的な機能についてのみです。他の製品によって付加される ConsoleOne の機能については、その製品のマニュアルを参照してください。

このガイドは、次の各セクションから構成されています。

- ◆ 第 1 章 「はじめに」 (13 ページ)
- ◆ 第 2 章 「管理の基本」 (31 ページ)
- ◆ 第 3 章 「ユーザアカウントの管理」 (47 ページ)
- ◆ 第 4 章 「権利の管理」 (53 ページ)
- ◆ 第 5 章 「ロールベース管理の設定」 (67 ページ)
- ◆ 第 6 章 「Novell eDirectory スキーマの拡張」 (75 ページ)
- ◆ 第 7 章 「Novell eDirectory のパーティション化とレプリカ作成」 (85 ページ)
- ◆ 第 8 章 「NetWare サーバリソースの管理」 (97 ページ)
- ◆ 第 9 章 「レポートの生成」 (109 ページ)
- ◆ 第 10 章 「トラブルシューティング」 (123 ページ)

マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、不等号 (>) を使用して、操作手順の動作、およびクロスリファレンスパス内の項目を区切ります。

また、®、™ などの商標記号は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

1

はじめに

ConsoleOne™ は、ネットワークおよびそのリソースを管理するための Java* ベースのツールです。デフォルトでは、次のものを管理できます。

- ◆ Novell® eDirectory™ オブジェクト、スキーマ、パーティション、およびレプリカ
- ◆ NetWare® サーバのリソース

他の Novell 製品をインストールすると、その製品の機能がスナップインとして ConsoleOne に自動的に追加されます。たとえば、Novell eDirectory をインストールすると、eDirectory に LDAP インタフェースを設定する機能が、スナップインとして ConsoleOne に自動的に追加されます。

この章では、ConsoleOne の今回のリリースで新たに追加された機能、NetWare アドミニストレータなどの従来のツールに代わって ConsoleOne を使うべき理由、および ConsoleOne のインストール方法と起動方法について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- ◆ 14 ページの「このリリースで新たに追加された機能」
- ◆ 15 ページの「ConsoleOne の特長」
- ◆ 17 ページの「ユーザ補助の改善」
- ◆ 18 ページの「他の製品からのスナップイン」
- ◆ 18 ページの「ConsoleOne のインストールと起動」

このリリースで新たに追加された機能

このリリースには、ConsoleOne 1.2d に新たに追加された中心的な機能が組み込まれています。次のセクションでは、これらの機能について説明します。

- ◆ 17 ページの「ユーザ補助の改善」
- ◆ 88 ページの「パーティションの関連性をチェックする」

さらに、ConsoleOne のこのリリースでは、次の機能が拡張されています。

機能	拡張された機能
32 ページの「オブジェクトの参照と検索」	NDS eDirectory 8.5 以降で動作しているツリーを DNS フェデレーション向けに設定している場合、ログインしているかどうかにかかわらず、そのツリー内のコンテキストにアクセスできます。この機能により、複数のツリーにわたって権利とメンバーシップを割り当てることができます。
47 ページの「ユーザアカウントの作成」	テンプレートを使用して、新規ユーザの権利割り当てとボリュームスペースの制限を作成できます。
78 ページの「補助クラスの定義と使用」	補助クラスで定義されているプロパティで eDirectory オブジェクトを個別に拡張できます。これまで、eDirectory オブジェクトの拡張はアプリケーションでしか行えませんでした。
98 ページの「サーバとファイルシステムの情報の表示と変更」	複数のファイル、フォルダ、またはボリュームのプロパティを同時に変更できるようになりました。NetWare Management Portal をサーバオブジェクトから起動することもできます。
39 ページの「オブジェクトプロパティの編集」	オブジェクトのタイプごとに、プロパティページを並べ替えたり、各ページの非表示と表示を切り替えたりできます。変更内容は、ConsoleOne セッション間で保持されます。
18 ページの「ConsoleOne のインストールと起動」	Windows や NetWare だけでなく、Linux*、Solaris*、および Tru64* で実行するコンピュータ上でも ConsoleOne をインストールして実行することができます。

ConsoleOne の特長

Novell は、単一の管理ツールとして使用できるように ConsoleOne の開発に取り組んでおり、その機能とパフォーマンスを向上させるための作業を続けています。したがって、今後は NetWare アドミニストレータなどの従来のツールが不要になります。従来のツールと比べて ConsoleOne がどのような点で優れているかを次に示します。その後で、制限事項についても取り上げます。

利点	説明
Windows* コンピュータまたは NetWare サーバで使用する	ConsoleOne は Java ベースであるため、Windows、NetWare、Linux*、Solaris*、Tru64 UNIX* のうち、どの環境でも実行できます。NetWare アドミニストレータ、NDS Manager™、スキーママネージャなどの従来のツールを実行できるのは、Windows だけです。
最新の Novell 製品を管理する	ConsoleOne では最新の Novell 製品および拡張機能を管理できますが、NetWare アドミニストレータなどの従来のツールはそのための更新が行われていません。たとえば、DirXML、Single Sign-on、および Certificate Server を管理できるのは ConsoleOne だけです。
大規模な eDirectory ツリーを参照する	NDS 8 で動作しているツリーに数千のオブジェクトから成るコンテナが含まれている場合、そのコンテナを ConsoleOne で参照した方が高速で整合性も保たれます。NetWare アドミニストレータで大規模なコンテナを開くと、時間がかかり、利用可能な RAM の制限を受けます。
DNS フェデレーションを使用して、eDirectory リソースにアクセスする	NDS eDirectory 8.5 以降で動作しているツリーを DNS フェデレーション向けに設定している場合、そのツリーにログインしているかどうかにかかわらず、ツリー内のコンテキストにアクセスできます。この機能により、複数の eDirectory ツリーを 1 つのシステムとして扱い、権利とメンバーシップを割り当てることができます。この機能は従来のツールにはありません。 32 ページの「オブジェクトの参照と検索」 を参照してください。
フィルタ済み eDirectory レプリカを作成する	ツリーを NDS eDirectory 8.5 以降で動作させている場合、ConsoleOne では PeopleSoft* など特定のアプリケーションとの同期に必要なオブジェクトおよびプロパティだけが含まれるフィルタ済みレプリカを作成できます。この機能は従来のツールにはありません。 92 ページの「レプリカの管理」 を参照してください。
eDirectory レポートを生成する	ConsoleOne では、eDirectory オブジェクト、ユーザ、グループ、およびセキュリティに関するレポートを生成できます。これらの機能は従来のツールにはありません。 109 ページの「レポートの生成」 を参照してください。

利点	説明
すべての eDirectory オブジェクトタイプを作成する	ConsoleOne では、eDirectory ツリーのスキーマに定義されていれば、追加したカスタムタイプなど、どのようなオブジェクトタイプでも作成できます。NetWare アドミニストレータで作成できるのは、スナップインのあるオブジェクトタイプだけです。35 ページの「 オブジェクトの作成と操作 」を参照してください。
すべてのオブジェクトタイプを 1 度に 1 つずつ、または複数変更する	ConsoleOne では、eDirectory ツリーのスキーマに定義されていれば、追加したカスタムプロパティなど、通常のようなオブジェクトプロパティでも編集できます。この機能は従来のツールにはありません。ConsoleOne では、1 回の操作で NetWare ボリューム上のファイルやフォルダなど、任意のクラスの複数のオブジェクトを変更することもできます。NetWare アドミニストレータでは、ユーザオブジェクトに対してだけ、このような操作ができます。35 ページの「 オブジェクトの作成と操作 」を参照してください。
補助クラスを定義し、使用する	ConsoleOne では、補助クラスの定義、補助クラスで定義されているプロパティを持つ eDirectory オブジェクトの拡張ができます。この機能は従来のツールにはありません。78 ページの「 補助クラスの定義と使用 」を参照してください。
クラスおよび属性に ASN.1 識別子を割り当てる	ConsoleOne では、eDirectory ツリーのスキーマに定義されているオブジェクトクラスおよび属性に ASN.1 識別子を割り当てることができます。この機能は従来のツールにはありません。76 ページの「 独自のオブジェクトクラスとプロパティの定義 」を参照してください。
ロールベースの管理を設定する	ConsoleOne では、eDirectory に役割を作成することにより、管理責任を委任できます。役割とは、アプリケーションの機能のうち、ユーザが実行できる機能のリストです。役割にアプリケーション機能を追加するには、その機能がタスクオブジェクトとして eDirectory ツリーに存在している必要があります。詳細については、67 ページの「 ロールベース管理の設定 」を参照してください。

今回のリリースでは、ConsoleOne には従来のツールと比べていくつかの制限もあります。将来のリリースでは、これらの制限のほとんどが解決される予定です。

制限事項	説明
プリントサービスを管理できない	現時点では、ネットワークプリントサービスを管理するには NetWare アドミニストレータを使用してください。
eDirectory の修復およびパーティションの関連性チェックをリモートで実行できない	現時点では、各サーバ上の eDirectory の修復、パーティションの関連性チェック、または別の管理者が開始したパーティション操作の中止をリモートから行うには、従来のツールである NDS マネージャを使用する必要があります。

制限事項	説明
eDirectory スキーマレポートを生成できない	現時点では、eDirectory ツリーのスキーマに関するレポートを生成するには従来のツールであるスキーママネージャが必要です。ただし、独自のレポートフォームを作成すると、ConsoleOne でもスキーマレポートを生成できます。 119 ページの「独自のレポートの設計」 を参照してください。
新規ユーザのセットアップスクリプトを作成および実行できない	ConsoleOne では、ユーザテンプレートの要素のうち、セットアップスクリプトだけは作成できません。また、テンプレートからユーザアカウントを新規作成するときに、セットアップスクリプトを実行することもできません。これらの作業には、NetWare アドミニストレータを使用する必要があります。
一部の旧 Novell 製品を管理できない	旧 Novell 製品の中には、対応する ConsoleOne スナップインがまだ出荷されていないものがあります (NetWare for SAA* など)。現時点では、これらの製品の管理には NetWare アドミニストレータを使用してください。
古いハードウェアではパフォーマンスが低くなる場合がある	ConsoleOne は Java ベースのため、古いハードウェアで実行するとパフォーマンスが低くなる場合があります。 18 ページの「ConsoleOne のインストールと起動」 で推奨されているハードウェア構成であれば、パフォーマンスは良好です。パフォーマンスの向上に最も効果的なのは、RAM の増設です。
ユーザインタフェースの軽微な不具合	ConsoleOne のユーザインタフェースには、軽微な不具合が現時点でも含まれています。詳細については、 127 ページの「既知の不具合と制限事項」 を参照してください。

ユーザ補助の改善

ConsoleOne 1.3 では、障害を持つお客さまが利用しやすいように、ソフトウェアおよびマニュアルを改善しました。

Java ソフトウェアで使用されるコントロールやショートカットキーについてよくわからない場合は、Web サイト [Swing Component Keystroke Assignments \(http://java.sun.com/j2se/1.3/ja/docs/ja/api/javax/swing/doc-files/Key-Index.html\)](http://java.sun.com/j2se/1.3/ja/docs/ja/api/javax/swing/doc-files/Key-Index.html) にあるリストを参照してください。

オンラインヘルプシステムである JavaHelp を操作する場合、<Tab> キーを使用するとコントロールアイコンへ移動できます。テキストウィンドウがアクティブな場合は、JavaHelp にはフォーカスがありませんが、上下の矢印ボタンでヘルプテキストをスクロールすることはできます。次の JavaHelp コントロールも使用できます。

- ◆ <Ctrl>+<T>= 次のリンク
- ◆ <Ctrl>+<Shift>+<T>= 前のリンク
- ◆ <Ctrl>+<Space>= 選択したリンクをアクティブにする

JavaHelp 1.1 は、現在、JAWS スクリーンリーダーソフトウェアを使用したアクセスには対応していません。スクリーンリーダーで JavaHelp にアクセスするには、Web サイト [AlphaWorks \(http://www.alphaworks.ibm.com/formula/selfvoicingkit\)](http://www.alphaworks.ibm.com/formula/selfvoicingkit) から入手できる IBM Self-Voicing Kit を使用してください。

他の製品からのスナップイン

ConsoleOne スナップインが含まれている製品をすでにインストールしたか、今後インストールする予定があり、それらのスナップインをこのリリースの ConsoleOne でも使用できるようにする場合は、それらのスナップインがこのリリースと同じ場所にインストールされていることを確認してください。次の点について考慮してください。

- ◆ ConsoleOne 1.2 スナップインはこのリリースと互換性がありますが、ConsoleOne 1.1 スナップインは互換性がありません。

使用している製品に ConsoleOne 1.1 スナップインしか用意されていない場合は、ConsoleOne 1.1 と異なる場所にこのリリースをインストールすることをお勧めします。デフォルトでは、ConsoleOne 1.1 のインストール先は NetWare サーバの `SYS:¥PUBLIC¥MGMT¥CONSOLE1` です。

- ◆ Novell 製品は、通常 ConsoleOne スナップインを NetWare サーバの SYS ボリュームにインストールします。たとえば、NDS 8 は LDAP スナップインを `SYS:¥PUBLIC¥MGMT¥CONSOLEONE¥1.2` にインストールします。
- ◆ NetWare サーバの SYS ボリュームにこのリリースをインストールすると、ConsoleOne 1.2x が上書きされ、ConsoleOne 1.1 が使用できなくなります。ただし、既存の ConsoleOne 1.2 スナップインは引き続き使用できます。
- ◆ このリリースをワークステーションのハードディスクにローカルでインストールすると、eDirectory のような他の製品がスナップインのインストール先を見つけることができない場合があります。他の製品からスナップインを手動で新規インストール先に移動することができます。

ConsoleOne のインストールと起動

ConsoleOne は、通常 Novell eDirectory や NetWare などの大型ソフトウェアのインストール時に一緒にインストールされます。このリリースの ConsoleOne が大型ソフトウェアのインストール時にインストールされなかった場合は、プラットフォームに合わせて、次の手順でインストールしてください。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 19 ページの「Windows」
- ◆ 22 ページの「NetWare」
- ◆ 23 ページの「Linux」
- ◆ 26 ページの「Solaris」
- ◆ 28 ページの「Tru64 UNIX」

Windows

Windows ワークステーションまたはサーバ上にローカルで ConsoleOne をインストールし、実行できます。また、NetWare や Windows サーバ上にリモートで ConsoleOne をインストールし、サーバにポイントされたマップまたは共有ドライブで実行することもできます。ワークステーションにローカルでインストールすると、Novell eDirectory のような他の製品が必要なスナップインを追加できなくなる場合があります。このため、サーバへのインストールをお勧めします。

Windows のシステム要件

オペレーティングシステム	次のリリース (またはそれ以降のリリース) のいずれか <ul style="list-style-type: none">◆ Windows 95/98+Novell Client™ 3.2◆ Windows NT*/2000+Novell Client 4.7 ヒント: Novell Client は、Novell® Software Downloads のページ (http://download.novell.com/sdMain.jsp) または無償製品のダウンロード (http://download.novell.co.jp/index.html) から入手できます。
RAM	推奨: 128MB 最小: 64MB ヒント: ConsoleOne でレポートを生成するには、128MB の RAM が必要です。
プロセッサ	推奨: 最低 200MHz
ディスク容量	38MB(ローカルでインストールする場合のみ)
ディスプレイ解像度	最小: 800 × 600(256 色)

Windows に ConsoleOne をインストールする

ConsoleOne をローカルで Windows サーバまたはワークステーションにインストールするには、次の手順に従います。ConsoleOne をリモートで NetWare サーバにインストールする場合は、「REFINT IDREF="A3olng3" PIDREF="HYPOU7V0" FILE="getstart.fm" ELEMENT="Head" FORMAT="HeadingOnPage">」を参照してください。

- 1 以前のバージョンの ConsoleOne を Windows コンピュータ上で実行している場合は、終了します。
- 2 ConsoleOne を含む CD を挿入するか、Novell® Free Software Downloads のページ (<http://download.novell.com/sdMain.jsp>) または無償製品のダウンロード (<http://download.novell.co.jp/index.html>) にアクセスします。
- 3 CD または Web サイト上で ConsoleOne のパッケージを検索し、Windows/NetWare 用のパッケージを選択します。

ヒント: インストールプログラムを実行できる CD を使用している場合は、ConsoleOne のみをインストールするオプションを選択して、手順 6 に進みます。

- 4 Web サイトにアクセスしている場合は、ConsoleOne ファイルを一時的な場所にダウンロードして解凍します。CD を使用している場合は、この手順をスキップします。
- 5 インストール用の実行可能ファイル (SETUP.EXE または CONSOLEONE.EXE) を実行します。
- 6 画面の指示に従ってインストールを完了します。

ヒント: Windows サーバにインストールして、ConsoleOne をドライブ共有によってリモートで実行する場合は、必ず ConsoleOne をインストールしたフォルダを共有に設定します。一部の Novell 製品では、この共有をインストールプログラムを実行する前に設定しておく必要があります。

Windows で ConsoleOne を起動する

ConsoleOne が Windows コンピュータ上にローカルでインストールされている場合は、デスクトップ上の ConsoleOne アイコンをダブルクリックします。

ConsoleOne が NetWare または Windows サーバ上にリモートでインストールされ、ショートカットがない場合は、次の手順に従います。

- 1 Windows のエクスプローラで、ConsoleOne がインストールされているサーバボリュームを表す、マップされたドライブまたは共有ドライブを検索し、ConsoleOne がインストールされているフォルダを見つけます。

デフォルトでは、次のフォルダになります。

Windows C:¥NOVELL¥CONSOLEONE¥1.2

NetWare SYS:PUBLIC¥MGMT¥CONSOLEONE¥1.2

重要: ConsoleOne を検索する場合、UNC パスではなく、ドライブ名にマップされたドライブ上を検索します。

- 2 BIN サブフォルダで、CONSOLEONE.EXE をダブルクリックします。
- 3 (オプション) 今後のために、リモートの CONSOLEONE.EXE へのショートカットをデスクトップに作成しておきます。

ConsoleOne での移動の方法や他の基本操作については、[31 ページの「管理の基本」](#)を参照してください。ConsoleOne の起動時または使用時に問題が発生した場合は、[123 ページの「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

ConsoleOne のユーザ補助を設定する

ConsoleOne で Windows のユーザ補助機能を利用するには、Java Access Bridge をインストールする必要があります。Java Access Bridge は Java Accessibility API を Windows DLL で利用できるようにするための技術です。これにより、Windows のユーザ補助機能は、Java Accessibility API を実装した Windows システム上の Java バーチャルマシンによって実行されるアプリケーションやアプレットにアクセスできます。

Java Access Bridge を設定するには、ConsoleOne を使用して次の手順を実行します。

- 1 Web サイト [Java Access Bridge \(http://java.sun.com/products/accessbridge\)](http://java.sun.com/products/accessbridge) から、Java Access Bridge をダウンロードします。
- 2 Java Access Bridge を C:¥ACCESSBRIDGE-1_0 ディレクトリに解凍して、次のコマンドを実行します。

```
C:¥ACCESSBRIDGE-1_0¥INSTALLER¥INSTALL
```

Java Access Bridge のインストールと設定の詳細については、Web サイト [Java Access Bridge Readme \(http://java.sun.com/products/accessbridge/README.txt\)](http://java.sun.com/products/accessbridge/README.txt) を参照してください。

- 3 次のファイルを NOVELL¥CONSOLEONE¥1.2¥CONSOLEONEEXT ディレクトリにコピーします。

```
JACCESS-1_3.JAR  
ACCESS-BRIDGE.JAR
```

- 4 ACCESSIBILITY.PROPERTIES を
NOVELL¥CONSOLEONE¥1.2¥CONSOLEONEEXT ディレクトリにコ
ピーします。
- 5 次のファイルをWindows DLLディレクトリ(C:¥WINNT¥SYSTEM32ま
たは C:¥WINDOWS¥SYSTEM など)にコピーします。

JAVAACCESSBRIDGE.DLL
WINDOWSACCESSBRIDGE.DLL

NetWare

NetWare サーバに ConsoleOne をインストールすると、サーバ上でローカ
ルに実行したり、サーバにマップしたドライブを使用して、Windows コ
ンピュータからリモートで実行することができます。NetWare サーバに
ConsoleOne をインストールすると、eDirectory などの他の Novell 製品
で、必要なスナップインを追加できるようになります。

NetWare のシステム要件

オペレーティング システム	NetWare 5 Support Pack 3 以降 ヒント : NetWare support pack は、 Minimum Patch List サイト (http://support.novell.com/ misc/patlst.htm) から入手できます。
プロセッサ	推奨 : 最低 200MHz
ディスク容量	38MB
ディスプレイ解像度	最小 : 800 × 600(256 色)(ローカルでインストールする場合のみ)

NetWare に ConsoleOne をインストールする

- 1 サーバGUIを含む、サーバ上で実行されている Java や Java アプリケー
ションを停止します。

停止するには、コンソールプロンプトで「JAVA -EXIT」と入力しま
す。
- 2 現在サーバへ接続して ConsoleOne をリモートで実行しているすべ
てのユーザに対して、ConsoleOne セッションを終了するように指示し
ます。
- 3 Windows ワークステーションで、サーバの SYS ボリュームのルート
にドライブ名をマップします。

- 4 同じワークステーションで、ConsoleOne を含む CD を挿入するか、Novell® Software Downloads のページ (<http://download.novell.com/sdMain.jsp>) または無償製品のダウンロード (<http://download.novell.co.jp/index.html>) にアクセスします。
- 5 CD または Web サイト上で ConsoleOne のパッケージを検索し、Windows/NetWare 用のパッケージを選択します。

ヒント: インストールプログラムを実行できる CD を使用している場合は、ConsoleOne だけをインストールするオプションを選択して、**手順 8** に進みます。
- 6 Web サイトにアクセスしている場合は、ConsoleOne ファイルを一時的な場所にダウンロードして解凍します。CD を使用している場合は、この手順をスキップします。
- 7 インストール用の実行可能ファイル (SETUP.EXE または CONSOLEONE.EXE) を実行します。
- 8 画面の指示に従ってインストールを完了します。インストール先を指定するように指示された場合は、サーバの SYS ボリュームのルートにマップされたドライブ名を選択します。

重要: UNC パスではなく、文字にマップされたドライブを選択します。

NetWare で ConsoleOne を起動する

ConsoleOne を NetWare サーバ上でローカルに起動するには、コンソールプロンプトで「**C1START**」と入力します。

ConsoleOne を、Windows コンピュータから NetWare サーバにマップされたドライブを使用してリモートで起動するには、**20 ページの「Windows で ConsoleOne を起動する」**を参照してください。

ConsoleOne での移動の方法や他の基本操作については、**31 ページの「管理の基本」**を参照してください。ConsoleOne の起動時または使用時に問題が発生した場合は、**123 ページの「トラブルシューティング」**を参照してください。

Linux

Linux コンピュータ上で ConsoleOne をローカルにインストールして実行することができます。X ターミナル (リモート) セッションを通じて別のコンピュータから ConsoleOne を実行することもできます。ただし、この場合、別のコンピュータが X ウィンドウサブシステムを備えている必要があります。

Linux のシステム要件

重要： ConsoleOne for Linux のこのリリースは、IBM* 1.3 Java ランタイム環境 (JRE) でのみテストされています。JRE がない場合は、ConsoleOne インストールパッケージに含まれている JRE をインストールしてください。JRE がある場合は、インストールする必要はありません。

オペレーティングシステム	次のリリース (またはそれ以降のリリース) のいずれか <ul style="list-style-type: none">◆ Red Hat* OpenLinux 6◆ Caldera* eDesktop 2.4◆ Caldera eServer 2.3
RAM	推奨：128MB 最小：64MB
プロセッサ	推奨：最低 200MHz
ディスク容量	JRE をインストールする場合 32MB JRE をインストールしない場合 5MB
ディスプレイ解像度	最小：800 × 600(256 色)

重要： ConsoleOne のこのリリースは、NDS eDirectory 8.5 以降と互換性がありますが、それ以前のリリースとは互換性はありません。eDirectory 8.5 よりも前のリリースがマシン上に存在することを検知すると、ConsoleOne インストールプログラムはインストールを中止します。

Linux に ConsoleOne をインストールする

- 1 古いバージョンの ConsoleOne および eDirectory を Linux コンピュータ上で実行している場合は、これらを終了し、システムから完全にアンインストール (関連するすべてのファイルを削除) してください。
- 2 ConsoleOne を含む CD を挿入するか、Novell® Free Software Downloads のページ (<http://download.novell.com/sdMain.jsp>) または無償製品のダウンロード (<http://download.novell.co.jp/index.html>) にアクセスします。
- 3 次の手順で、CD または Web サイトでダウンロードしたファイルから ConsoleOne インストールプログラム (c1-install ファイル) を検索します。

ソース	c1-install ファイルの検索手順
CD	ConsoleOne/Linux ディレクトリに移動します。
Web サイト	<ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] > [ConsoleOne for Linux] の順にクリックします。 2. Web サイト上の指示に従って、ConsoleOne パッケージ (c1linux.tar ファイル) をダウンロードします。 3. システムプロンプトで、「tar xf c1linux.tar」と入力して、ダウンロードしたファイルを解凍します。 4. ダウンロードファイルを解凍したときに作成された ConsoleOne/Linux ディレクトリに移動します。

4 システムプロンプトで「**c1-install**」と入力して、ConsoleOne インストールプログラムを実行します。

5 指示に従ってインストールを完了します。

重要 : ConsoleOne for Linux のこのリリースは、IBM 1.3 Java ランタイム環境 (JRE) でしかテストされていません。JRE がない場合は、ConsoleOne インストールパッケージに含まれている JRE をインストールしてください。JRE があり、すでにインストールされている場合は、インストールを求めるプロンプトに対して「いいえ」を選択します。

ConsoleOne をインストールした後、システムプロンプトで「**c1-uninstall**」と入力することにより、いつでもアンインストールできます。c1-install や c1-uninstall コマンドにオプションのパラメータを指定することにより、標準修復モードでの実行、またはコンポーネントの個別のインストールや個別のアンインストールを行うことができます。コマンドのシンタックスの詳細を参照するには、システムプロンプトで、「**c1-install -h**」または「**c1-uninstall -h**」と入力します。ConsoleOne のインストールまたはアンインストール結果のログについては、/var/ ディレクトリ / に作成された対応するログファイルを参照してください。

Linux で ConsoleOne を起動する

ローカルセッションまたは X ターミナル (リモート) セッションのシステムプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
/usr/ConsoleOne/bin/ConsoleOne
```

ConsoleOne での移動の方法や他の基本操作については、[31 ページの「管理の基本」](#)を参照してください。ConsoleOne の起動時または使用時に問題が発生した場合は、[123 ページの「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

Solaris

Solaris コンピュータ上で ConsoleOne をローカルにインストールして実行することができます。X ターミナル (リモート) セッションを通じて別のコンピュータから ConsoleOne を実行することもできます。ただし、この場合、別のコンピュータが X ウィンドウサブシステムを備えている必要があります。

Solaris のシステム要件

重要 : ConsoleOne for Solaris のこのリリースは、Sun* 1.2.2-5a Java ランタイム環境 (JRE) でしかテストされていません。JRE がない場合は、ConsoleOne インストールパッケージに含まれている JRE をインストールしてください。JRE がある場合は、インストールする必要はありません。

オペレーティングシステム	次のリリース (またはそれ以降のリリース) のいずれか <ul style="list-style-type: none">◆ 最新のパッチをインストールした Solaris 2.6 または 7◆ Solaris 8 <p>ヒント : Solaris のパッチは、SunSolve Online (http://sunsolve.sun.com) で入手できます。</p>
ディスク容量	JRE をインストールする場合 64MB JRE をインストールしない場合 10MB
ディスプレイ解像度	最小 : 800 × 600 (256 色)

重要 : ConsoleOne のこのリリースは、NDS eDirectory 8.5 以降と互換性がありますが、それ以前のリリースとは互換性はありません。eDirectory 8.5 よりも前のリリースがマシン上に存在することを検知すると、ConsoleOne インストールプログラムはインストールを中止します。

Solaris に ConsoleOne をインストールする

- 1 古いバージョンの ConsoleOne および eDirectory を Solaris コンピュータ上で実行している場合は、これらを終了し、システムから完全にアンインストール (関連するすべてのファイルを削除) してください。
- 2 ConsoleOne を含む CD を挿入するか、[Novell® Free Software Downloads のページ \(http://download.novell.com/sdMain.jsp\)](http://download.novell.com/sdMain.jsp) または [無償製品のダウンロード \(http://download.novell.co.jp/index.html\)](http://download.novell.co.jp/index.html) にアクセスします。
- 3 次の手順で、CD または Web サイトでダウンロードしたファイルから ConsoleOne インストールプログラム (c1-install ファイル) を検索します。

ソース	c1-install ファイルの検索手順
CD	ConsoleOne/Solaris ディレクトリに移動します。
Web サイト	<ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] > [ConsoleOne for Solaris] の順にクリックします。 2. Web サイト上の指示に従って、ConsoleOne パッケージ (c1sol.tar ファイル) をダウンロードします。 3. システムプロンプトで、「tar xf c1sol.tar」と入力して、ダウンロードしたファイルを解凍します。 4. ダウンロードファイルを解凍したときに作成された ConsoleOne/Solaris ディレクトリに移動します。

4 システムプロンプトで「**c1-install**」と入力して、ConsoleOne インストールプログラムを実行します。

5 指示に従ってインストールを完了します。

重要 : ConsoleOne for Solaris のこのリリースは、Sun 1.2.2-5a Java ランタイム環境 (JRE) でしかテストされていません。JRE がいない場合は、ConsoleOne インストールパッケージに含まれている JRE をインストールしてください。JRE があり、すでにインストールされている場合は、インストールを求めるプロンプトに対して「いいえ」を選択します。

ConsoleOne をインストールした後、システムプロンプトで「**c1-uninstall**」と入力することにより、いつでもアンインストールできます。c1-install や c1-uninstall コマンドにオプションのパラメータを指定することにより、標準修復モードでの実行、またはコンポーネントの個別のインストールや個別のアンインストールを行うことができます。コマンドのシンタックスの詳細を参照するには、システムプロンプトで、「**c1-install -h**」または「**c1-uninstall -h**」と入力します。ConsoleOne のインストールまたはアンインストール結果のログについては、/var ディレクトリに作成された対応するログファイルを参照してください。

Solaris で ConsoleOne を起動する

ローカルセッションまたは X ターミナル (リモート) セッションのシステムプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
/usr/ConsoleOne/bin/ConsoleOne
```

ConsoleOne での移動の方法や他の基本操作については、[31 ページの「管理の基本」](#)を参照してください。ConsoleOne の起動時または使用時に問題が発生した場合は、[123 ページの「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

Tru64 UNIX

Tru64 UNIX コンピュータ上で ConsoleOne をローカルにインストールして実行することができます。X ターミナル(リモート)セッションを通じて別のコンピュータから ConsoleOne を実行することもできます。ただし、この場合、別のコンピュータが X ウィンドウサブシステムを備えている必要があります。

Tru64 UNIX のシステム要件

重要 : ConsoleOne for Tru64 UNIX のこのリリースは、Compaq* 1.2.2 Java ランタイム環境 (JRE) でしかテストされていません。JRE がいない場合は、ConsoleOne インストールパッケージに含まれている JRE をインストールしてください。JRE がある場合は、インストールする必要はありません。

オペレーティングシステム	Compaq Tru64 UNIX 5.0a 以降
RAM	推奨 : 128MB 最小 : 64MB
ディスク容量	JRE をインストールする場合 20MB JRE をインストールしない場合 5MB
ディスプレイ解像度	最小 : 800 × 600(256 色)

重要 : ConsoleOne のこのリリースは、NDS eDirectory 8.5 以降と互換性がありますが、それよりも前のリリースとは互換性はありません。eDirectory 8.5 よりも前のリリースがマシン上に存在することを検知すると、ConsoleOne インストールプログラムはインストールを中止します。

Tru64 に ConsoleOne をインストールする

- 1 古いバージョンの ConsoleOne および eDirectory を Tru64 UNIX コンピュータ上で実行している場合は、これらを終了し、システムから完全にアンインストール(関連するすべてのファイルを削除)してください。
- 2 ConsoleOne を含む CD を挿入するか、Novell® Free Software Downloads のページ (<http://download.novell.com/sdMain.jsp>) または無償製品のダウンロード (<http://download.novell.co.jp/index.html>) にアクセスします。
- 3 次の手順で、CD または Web サイトでダウンロードしたファイルから ConsoleOne インストールプログラム (c1-install ファイル) を検索します。

ソース	c1-install ファイルの検索手順
CD	ConsoleOne/Tru64 ディレクトリに移動します。
Web サイト	<ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] > [ConsoleOne for Tru64] の順にクリックします。 2. Web サイト上の指示に従って、ConsoleOne パッケージ (c1tru64.tar ファイル) をダウンロードします。 3. システムプロンプトで、「tar xf c1tru64.tar」と入力して、ダウンロードしたファイルを解凍します。 4. ダウンロードファイルを解凍したときに作成された ConsoleOne/Tru64 ディレクトリに移動します。

4 システムプロンプトで「**c1-install**」と入力して、ConsoleOne インストールプログラムを実行します。

5 指示に従ってインストールを完了します。

重要 : ConsoleOne for Tru64 UNIX のこのリリースは、Compaq* 1.2.2 Java ランタイム環境 (JRE) でのみテストされています。JRE がない場合は、ConsoleOne インストールパッケージに含まれている JRE をインストールしてください。JRE があり、すでにインストールされている場合は、インストールを求めるプロンプトに対して「いいえ」を選択します。

ConsoleOne をインストールした後、システムプロンプトで「**c1-uninstall**」と入力することにより、いつでもアンインストールできます。c1-install や c1-uninstall コマンドにオプションのパラメータを指定することにより、標準修復モードでの実行、またはコンポーネントの個別のインストールや個別のアンインストールを行うことができます。コマンドのシンタックスの詳細を参照するには、システムプロンプトで、「**c1-install -h**」または「**c1-uninstall -h**」と入力します。ConsoleOne のインストールまたはアンインストール結果のログについては、/var ディレクトリに作成された対応するログファイルを参照してください。

Tru64 UNIX で ConsoleOne を起動する

ローカルセッションまたは X ターミナル (リモート) セッションのシステムプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
/usr/ConsoleOne/bin/ConsoleOne
```

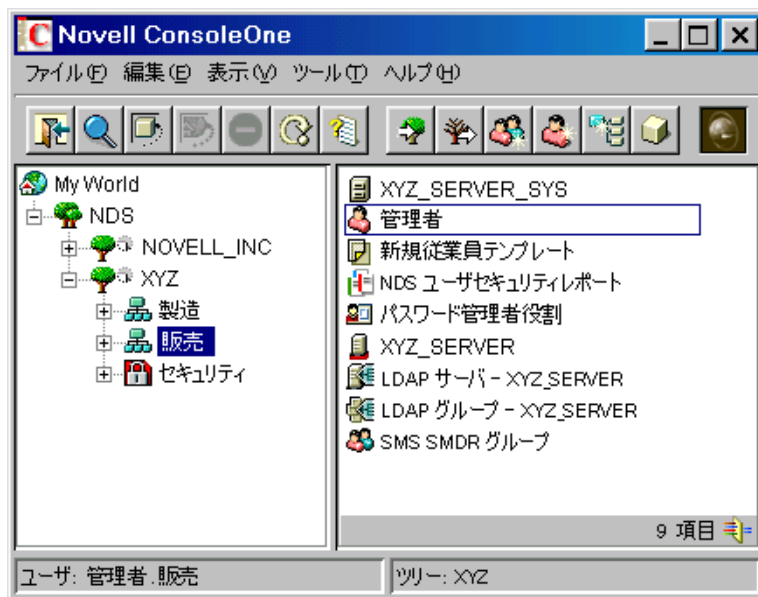
ConsoleOne での移動の方法や他の基本操作については、[31 ページの「管理の基本」](#)を参照してください。ConsoleOne の起動時または使用時に問題が発生した場合は、[123 ページの「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

2

管理の基本

ConsoleOne™ では、ネットワークとそのリソースは1セットのオブジェクトとして表されます。オブジェクトはさまざまなコンテナに収められ、最上位のコンテナが My World です。コンテナを展開/縮小するには、左側の画面を使用します。特定のリソースを操作するには、右側の画面を使用します。

図 1 ConsoleOne 管理ツール



管理作業を行うには、オブジェクトを参照し、そのオブジェクトを右クリックしてアクションを選択するのが一般的です。実行できるアクションは、オブジェクトのタイプによって異なります。たとえば、[新しいオブジェクトクラス] というアクションが行えるのはコンテナだけです。

この章では、基本的な作業を実行する方法について説明します。オブジェクトの検索、オブジェクトの作成と変更、およびオブジェクトのコンテナへの編成などを取り上げます。一般的な Novell® eDirectory™ オブジェクトタイプについては、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「**オブジェクトクラスとプロパティ**」を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- ◆ 32 ページの「オブジェクトの参照と検索」
- ◆ 35 ページの「オブジェクトの作成と操作」
- ◆ 39 ページの「オブジェクトプロパティの編集」
- ◆ 41 ページの「オブジェクトのコンテナへの格納」
- ◆ 44 ページの「ビューのカスタマイズ」

オブジェクトの参照と検索

左側の画面には、「NDS」コンテナが表示されます。このコンテナには、現在ログインしている eDirectory ツリーが含まれています。別の eDirectory ツリーにログインすると、そのツリーが NDS コンテナに表示されます。NDS® eDirectory 8.5 以降で動作しているツリーを DNS フェデレーション向けに設定している場合、そのツリーにログインしなくても、そのツリーの特定のコンテキストを NDS コンテナに表示できます。

eDirectory ツリーまたはコンテキスト内に移動し、右側の画面にオブジェクトが表示されると、次に説明する方法を使用して、管理する特定のオブジェクトを検索できます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 33 ページの「eDirectory ツリーにログインする」
- ◆ 33 ページの「eDirectory ツリーからログアウトする」
- ◆ 33 ページの「DNS フェデレーションを使用して eDirectory コンテキストにアクセスする」
- ◆ 34 ページの「右側の画面にあるオブジェクトにジャンプする」
- ◆ 34 ページの「ビューから無関係のオブジェクトをフィルタする」
- ◆ 34 ページの「識別名でオブジェクトを検索する」
- ◆ 34 ページの「名前とタイプでオブジェクトを検索する」
- ◆ 35 ページの「プロパティ値でオブジェクトを検索する」

eDirectory ツリーにログインする

- 1 「NDS」 コンテナの任意の場所をクリックします。
- 2 ツールバーの [NDS 認証] ボタンをクリックします。
- 3 [ログイン] ダイアログボックスに必要な事項を入力します。

ヒント: ログインできる eDirectory ツリーのリストを表示するには、ツリーのアイコンをクリックします。目的のツリーがリストにない場合は、[125 ページの「ログインしたい eDirectory ツリーが見つからない」](#)を参照してください。

- 4 [ログイン] をクリックします。

新しいツリーが ConsoleOne の NDS コンテナに追加されます。

eDirectory ツリーからログアウトする

- 1 ログアウトする eDirectory ツリーをクリックします。
- 2 ツールバーの [NDS 認証解除] ボタンをクリックします。

ツリーが NDS コンテナから削除されます。

DNS フェデレーションを使用して eDirectory コンテキストにアクセスする

この機能が動作するのは、目的の eDirectory コンテキストのあるツリーが NDS eDirectory 8.5 以降で動作し、DNS フェデレーション向けに設定されている場合だけです。

- 1 「NDS」 コンテナの任意の場所をクリックします。
- 2 [表示] > [コンテキストの設定] の順にクリックします。
- 3 アクセスしようとしている eDirectory コンテキストの DNS 名を、末尾に dns とピリオド (.) を含めた完全な形式で入力します。

例: sales.xyz.com.dns.

- 4 [OK] をクリックします。

DNS 名が正しく解決されれば、アクセスしようとしている eDirectory コンテキストが NDS コンテナに表示されます。eDirectory コンテキストのオブジェクトは、eDirectory ツリーのオブジェクトと同じように参照および管理できます。

右側の画面にあるオブジェクトにジャンプする

- 1 右側の画面で任意の場所をクリックします。
- 2 現在のコンテナまたはビュー内にあるオブジェクトの名前を入力し、<Enter> を押すと、オブジェクトにジャンプします。

ビューから無関係のオブジェクトをフィルタする

ビューに適用するフィルタは、現在の ConsoleOne セッションでのみ有効です。ConsoleOne を再起動すると、フィルタはクリアされます。

- 1 [表示] > [フィルタ] の順にクリックします。
- 2 (オプション) [名前] に、オブジェクト名にフィルタとして適用するワイルドカードのパターンを入力します。
アスタリスク (*) のみワイルドカードとして使用できます。
例: xyz* とすると、名前が「xyz」で始まるオブジェクトを除き、すべてのオブジェクトが非表示になります。
- 3 [オブジェクトタイプ] で、表示するオブジェクトタイプを選択し、非表示にするオブジェクトの選択を解除します。
- 4 [OK] をクリックします。

識別名でオブジェクトを検索する

- 1 左側の画面で、検索するオブジェクトが含まれている eDirectory ツリーの任意の場所をクリックします。
- 2 検索するオブジェクトの名前を入力します。
入力を始めると、[ジャンプ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 オブジェクトの識別名を最後まで入力します。
セパレータなどの特殊文字の使用方法を参照するには、[ヘルプ] をクリックします。
例: djones.salses.xyz_corp
- 4 [OK] をクリックします。

名前とタイプでオブジェクトを検索する

- 1 左側の画面で、検索を開始する eDirectory コンテナをクリックします。
- 2 [編集] > [検索] の順にクリックします。

- 3 検索対象にサブコンテナを含める場合は、[サブコンテナも検索する] を選択します。
- 4 [名前] に、オブジェクト名の全部または一部を入力します。
オブジェクト名の一部だけを入力する場合は、ワイルドカードとしてアスタリスクを含めます。
例: johnw*
- 5 [オブジェクトタイプ] で、検索するオブジェクトのタイプを選択します。
- 6 [検索] をクリックします。
検索結果リストで、ConsoleOne の右側の画面と同じように、アクションを行うオブジェクトを右クリックできます。

プロパティ値でオブジェクトを検索する

- 1 左側の画面で、検索を開始する eDirectory コンテナをクリックします。
- 2 [編集] > [検索] の順にクリックします。
- 3 [検索タイプ] で、[詳細] を選択します。
- 4 ダイアログボックスのクエリ作成エリアで、検索条件を指定します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 5 [検索] をクリックします。
検索結果リストで、ConsoleOne の右側の画面と同じように、アクションを行うオブジェクトを右クリックできます。

オブジェクトの作成と操作

管理するネットワークリソース (オブジェクト) を検索したら、プロパティを変更することでそのオブジェクトの動作を変更できます。必要に応じて、オブジェクトの削除、移動、リネームの他に、新規のオブジェクトを作成することもできます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 36 ページの「オブジェクトを作成する」
- ◆ 37 ページの「オブジェクトのプロパティを変更する」
- ◆ 37 ページの「複数のオブジェクトを同時に変更する」

- ◆ 38 ページの「オブジェクトをリネームする」
- ◆ 38 ページの「オブジェクトを移動する」
- ◆ 39 ページの「オブジェクトを削除する」

オブジェクトを作成する

- 1 オブジェクトを作成するコンテナを右クリックして、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。

コンテナタイプによって、作成できるオブジェクトのタイプに制限があります。詳細については、実際に行う作業の資料または使用するアプリケーションのマニュアルを参照してください。

- 2 [クラス] でオブジェクトのタイプを選択し、[OK] をクリックします。
- 3 オブジェクトの作成に利用できるスナップインがないという警告が表示された場合は、作成するオブジェクトに関する理解度に応じて、次の表から該当する操作を実行します。

理解度	操作
完全 — オブジェクトタイプとそのプロパティの使用方法を理解している。	警告メッセージボックスで [はい] をクリックします。 汎用エディタを使用して、オブジェクトの必須プロパティを設定できます。オブジェクトの作成後、[その他] 一般プロパティページを使用して、その他のプロパティを設定できます。
最小限 — オブジェクトが何であるかは理解しているが、そのプロパティの使用方法を詳しくは理解していない。	警告メッセージボックスで [いいえ] をクリックし、この手順を終了します。 目的のオブジェクトタイプの作成と管理に必要な ConsoleOne スナップインを提供する製品をインストールする必要があります。

- 4 [名前] に新規オブジェクトの名前を入力します。
eDirectory オブジェクトの場合は、命名規定に従って正確に名前を入力します。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「命名規定」を参照してください。
- 5 ダイアログボックスで要求されるその他の情報を指定します。

詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください (汎用エディタを使用している場合は、詳細についてのヘルプは利用できません)。

6 [OK] をクリックします。

オブジェクトのプロパティを変更する

1 目的のオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

2 必要に応じてプロパティページを編集します。

特定のプロパティの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。プロパティページの使用方法については、[39 ページの「オブジェクトプロパティの編集」](#)を参照してください。

3 [OK] をクリックします。

複数のオブジェクトを同時に変更する

1 次のいずれかの方法でオブジェクトを選択します。

- ◆ 右側の画面で、<Shift> または <Ctrl> を押しながら、同じタイプの複数のオブジェクトをクリックします。
- ◆ グループオブジェクトまたはテンプレートオブジェクトをクリックして、そのメンバーを変更します。
- ◆ コンテナをクリックして、その内部にあるオブジェクトを変更します。

2 [ファイル] > [複数のオブジェクトのプロパティ] の順にクリックします。

3 手順 1 でコンテナを選択した場合は、ダイアログボックスで、変更するオブジェクトタイプをダブルクリックします。それ以外の場合は、この手順をスキップします。

4 [変更するオブジェクト] ページで、変更するオブジェクトのみリスト表示されていることを確認します。

必要に応じてオブジェクトを追加または削除します。

5 他のプロパティページで、選択したすべてのオブジェクトに設定するプロパティ値を指定します。

特定のプロパティの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

重要: 複数のオブジェクトを編集するときには、プロパティページが通常と違った動作をします。詳細については、[39 ページの「オブジェクトプロパティの編集」](#)を参照してください。

- 6 [OK] をクリックします。

オブジェクトをリネームする

- 1 目的のオブジェクトを右クリックし、[リネーム] をクリックします。
- 2 [新しい名前] に、新しい名前を入力します。
eDirectory オブジェクトの場合は、命名規定に従って正確に名前を入力します。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「[命名規定](#)」を参照してください。
- 3 古い名前でオブジェクトを保存する場合は、[古い名前を保存] をクリックします。
古いオブジェクト名は、オブジェクトの一般識別のプロパティページにある [ニックネーム] フィールドに格納されます。
- 4 [OK] をクリックします。

オブジェクトを移動する

- 1 右側の画面で、<Shift> または <Ctrl> を押しながら、移動する各オブジェクトをクリックして、選択します。
ヒント: コンテナオブジェクトは、パーティションルートである場合にのみ移動できます。詳細については、[86 ページの「パーティションの管理」](#)を参照してください。
- 2 選択オブジェクトを右クリックし、[移動] を選択します。
- 3 [移動先] フィールドの横にある [参照] ボタンをクリックし、オブジェクトの移動先になるコンテナを選択して、[OK] をクリックします。
- 4 移動するオブジェクトの別名を移動前の場所に作成する場合は、[移動する全オブジェクトに 1 つの別名を作成] を選択します。
これにより、移動前の場所に関連するあらゆる操作は、移動後の場所を反映するように操作を更新するまで、中断することなく実行できます。
- 5 [OK] をクリックします。

オブジェクトを削除する

- 1 <Shift> または <Ctrl> を押しながら、削除する各オブジェクトをクリックして、選択します。
コンテナオブジェクトを削除する場合は、最初にコンテナ内の項目をすべて削除する必要があります。
- 2 選択したオブジェクトを右クリックし、[削除] を選択します。
- 3 確認ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

オブジェクトプロパティの編集

オブジェクトの動作は、そのプロパティを編集することによって制御できます。プロパティページを使用する場合、知っておくべき一般的な機能があることに注意してください。また、複数のオブジェクトを同時に編集する場合にだけ関連する機能があることにも注意してください。プロパティページをカスタマイズすることもできます。


このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 39 ページの「一般的な機能」
- ◆ 40 ページの「複数のオブジェクトを同時に編集する場合にだけ関連する機能」
- ◆ 41 ページの「プロパティページをカスタマイズする」

一般的な機能

次の表は、プロパティページを使用するときの一般的な機能をまとめたものです。

機能	注意点
[OK]、 [キャンセル]、 [適用]	これらのボタンは、すべてのプロパティページに影響を与えます。[OK] と [適用] は、すべてのプロパティページに加えられたすべての変更を保存します ([適用] はダイアログボックスを開いたままにします)。[キャンセル] は、すべてのプロパティページに加えられたすべての変更を破棄します。
タブ	各タブには、複数のプロパティページを取めることができます。目的のページを選択するには、タブのドロップダウンリストをクリックします。

機能	注意点
	このコントロールが横にあるフィールドには、複数の値を設定できます。すべての値を表示するには、このコントロールをクリックします。複数の値を入力するには、値を入力してから、<Enter> を押し、続いて次の値を入力して、<Enter> を押します。入力する値の分だけ、この操作を繰り返します。
使用不可のフィールドとオプション	<p>フィールドとオプションが使用不可になるのは次の場合です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 関連付けられたプロパティを変更する権限がない ◆ フィールドまたはオプションを使用可能にするために、他の設定を先に変更する必要がある

複数のオブジェクトを同時に編集する場合にだけ関連する機能

次の表は、プロパティページを使用して複数のオブジェクトを同時に編集する場合にだけ関連する機能をまとめたものです。

機能	注意点
フィールドとリスト	<ul style="list-style-type: none"> ◆ オブジェクトごとに既存の値が異なる場合があるため、フィールドやリストには値が表示されません。 ◆ 単一の値を取るフィールドの場合、[OK] または [適用] をクリックすると、入力した値が各オブジェクトの既存の値と置き換わります。 ◆ 複数の値を取るフィールドまたはリストの場合、[OK] または [適用] をクリックすると、入力した値が各オブジェクトの既存の値に追加されます。
チェックボックス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チェックがオンになっている明るい灰色のチェックボックスは、中立の状態です。[OK] または [適用] をクリックしても、既存のオブジェクトの該当する項目に対して、変更は反映されません。 ◆ 白色のチェックボックスと暗い灰色のチェックボックスは、機能している状態です。[OK] または [適用] をクリックすると、これらの設定が各オブジェクトの既存の設定と置き換わります。
表示されない項目	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 特定のオブジェクトインスタンスだけに適用される個々のフィールドおよびオプションは表示されません。たとえば、複数のユーザに同じ名字を与える必要はないので、複数のユーザを編集するときには [名字] フィールドは表示されません。 ◆ 複数のオブジェクトを編集できるように設計されていないプロパティページは表示されません。たとえば、複数のオブジェクトを編集するときには汎用の [その他] ページは表示されません。

プロパティページをカスタマイズする

ConsoleOne のオブジェクトタイプごとに、プロパティページを並べ替えたり、非表示にすることができます。

カスタマイズした内容は保存され、次回同じコンピュータで ConsoleOne を起動したときに使用されます。

- 1 カスタマイズするタイプのオブジェクトのプロパティを開き、[ページオプション] をクリックします。
- 2 プロパティページをカスタマイズします。
 - 2a タブまたはページを別の場所に移動するには、そのタブまたはページを選択し、[上へ] または [下へ] をクリックします。
ページを別のタブに移動することはできません。
 - 2b タブまたはページの非表示と表示を切り替えるには、そのタブまたはページを選択し、[無効] または [有効] をクリックします。
使用できない項目は灰色で表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。

オブジェクトのコンテナへの格納

eDirectory ツリー内では、さまざまなコンテナを作成してツリーを構成し、それらのコンテナの中にオブジェクトを配置できます。コンテナ内のオブジェクトは、そのコンテナと自動的に同等セキュリティになるため、コンテナの権利も管理する必要があります。同じオブジェクトが複数のコンテナに含まれている場合、そのオブジェクトの別名を作成し、その別名を使用してオブジェクトにアクセスできます。

一般的なコンテナタイプと別名を作成する手順を次に示します。特定のアプリケーション用のコンテナタイプを作成する方法については、そのアプリケーションのマニュアルを参照してください。一般的な eDirectory ツリーを設計する場合の注意事項については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「Novell eDirectory ネットワークの設計」を参照してください。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 42 ページの「組織オブジェクトを作成する」
- ◆ 42 ページの「部門オブジェクトを作成する」
- ◆ 43 ページの「地域オブジェクトを作成する」

- ◆ 43 ページの「国オブジェクトを作成する」
- ◆ 43 ページの「オブジェクトの別名を作成する」

組織オブジェクトを作成する

- 1 組織オブジェクトを作成するツリーオブジェクト、国オブジェクト、地域オブジェクト、またはドメインオブジェクトを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 2 [クラス] で [組織] を選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [名前] には、最大 64 文字までの名前を入力します。
命名規定に従って正確に名前を入力します。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「Novell eDirectory ネットワークの設計」を参照してください。
例: XYZ_CORP
- 4 コンテナの作成時にプロパティ値を新たに割り当てる場合は、[作成後に詳細を設定] を選択します。
たとえば、コンテナのログインスクリプトを作成したり、不正侵入者検出を設定することができます。
- 5 [OK] をクリックします。

部門オブジェクトを作成する

- 1 新規の部門オブジェクトを作成する組織オブジェクト、部門オブジェクト、地域オブジェクト、またはドメインオブジェクトを右クリックし、[新規作成] > [部門] の順にクリックします。
- 2 [名前] には、最大 64 文字の名前を入力します。
命名規定に従って正確に名前を入力します。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「命名規定」を参照してください。
例: マーケティング
- 3 コンテナの作成時にプロパティ値を新たに割り当てる場合は、[作成後に詳細を設定] を選択します。
たとえば、コンテナのログインスクリプトを作成したり、不正侵入者検出を設定することができます。
- 4 [OK] をクリックします。

地域オブジェクトを作成する

- 1 地域オブジェクトを作成する国オブジェクト、地域オブジェクト、ドメインオブジェクト、組織オブジェクト、または部門オブジェクトを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 2 [クラス] で、[地域] を選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [名前] フィールドおよび [名前の対象] フィールドに必要事項を入力します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 4 [OK] をクリックします。

国オブジェクトを作成する

- 1 目的のツリーオブジェクトまたはドメインオブジェクトを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 2 [クラス] で、[国] を選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [名前] に、2 文字の ISO カントリコードを入力します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
例: フランスの場合は、「FR」と入力します。
- 4 コンテナの作成時にプロパティ値を新たに割り当てる場合は、[作成後に詳細を設定] を選択します。
たとえば、よりわかりやすい国名にできます。
- 5 [OK] をクリックします。

オブジェクトの別名を作成する

- 1 別名を作成するコンテナを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 2 [クラス] で、[別名] を選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [名前] には、最大 64 文字の名前を入力します。
命名規定に従って正確に名前を入力します。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「命名規定」を参照してください。
例: SalesVolumeAlias

- 4 [オブジェクト] フィールドの横にある [参照] ボタンをクリックし、別名で表すオブジェクトを選択して、[OK] をクリックします。
- 5 別名の作成時にプロパティ値を新たに割り当てる場合は、[作成後に詳細を設定] を選択します。
たとえば、別名のトラスティを割り当てることができます。
- 6 [OK] をクリックします。
ユーザは、実際のオブジェクトと同様に別名を使用できます。

ビューのカスタマイズ

左右の画面のビューは、さまざまな方法でカスタマイズできます。たとえば、左側の画面の最上位に **My World** 以外のオブジェクトを設定したり、右側の画面の列幅を調整することができます。右側の画面にあるビュータイトルの表示と非表示を切り替えることもできます。eDirectory ツリーでは、右側の画面のビューを基にして、オブジェクトをフィルタ処理できます (32 ページの「[オブジェクトの参照と検索](#)」を参照してください)。

ヒント: 左右の画面でカスタマイズした内容のほとんどは、ConsoleOne を終了すると失われます。保存されるのは、ウィンドウのサイズと位置、およびビュータイトルの設定だけです。



このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 44 ページの「[画面左側の最上位オブジェクトを設定する](#)」
- ◆ 45 ページの「[右側の画面のビュータイトルを表示または非表示にする](#)」
- ◆ 45 ページの「[右側の画面の列幅を調整する](#)」

画面左側の最上位オブジェクトを設定する

次の表で説明するように、使用する手順は、どのオブジェクトを最上位に設定するかによって異なります。

最上位に設定するオブジェクト	手順
現在の最上位オブジェクトよりも下位にあるコンテナ	コンテナを右クリックし、[[Root] に設定する] をクリックします。

最上位に設定するオブジェクト	手順
現在の最上位オブジェクトよりも上位にあるコンテナ	そのコンテナが表示されるまで、左側の画面にある  をダブルクリックします。
My World	左側の画面にある  を右クリックし、[My World を表示] をクリックします。

右側の画面のビュータイトルを表示または非表示にする

デフォルトでは、右側の画面には [コンソール表示] があります。この [コンソール表示] を、[パーティション] ビューと [レプリカ] ビューなど他のビューに切り替えることができます。ただし、そのビューがスナップインで追加されている必要があります。右側の画面がどのビューであっても、そのビュータイトルを右側の画面の最上部に表示したり、非表示にすることができます。

ビュータイトルの表示または非表示の設定は保存され、次回同じコンピュータで **ConsoleOne** を起動したときに使用されます。

ビュータイトルを表示または非表示にするには、[表示] > [ビュータイトルを表示] の順にクリックします。ビュータイトルを表示しているか非表示にしているかに応じて、該当するメニュー項目にチェックマークが付いたり消えたりします。

右側の画面の列幅を調整する

- 1 マウスポインタを1列目と2列目の境界に移動します。
- 2 マウスポインタの形状がサイズ変更矢印に変わったら、列を目的の幅にドラッグします。

3

ユーザアカウントの管理

Novell® eDirectory™ ユーザアカウントの設定作業では、ユーザオブジェクトを作成し、ユーザのネットワークコンピューティング環境とログインを制御するためのプロパティを設定します。テンプレートオブジェクトを使用すると、これらの作業が容易になります。

ログインスクリプトを作成すると、ユーザが必要とするファイルやプリンタなどネットワークリソースへの接続をログイン時に自動的に行うことができます。複数のユーザが同じリソースを使用する場合には、ログインスクリプトコマンドをコンテナおよびプロファイルのログインスクリプトに含めることができます。

この章では、次の項目について説明します。

- ◆ 47 ページの「ユーザアカウントの作成」
- ◆ 49 ページの「オプションのアカウント機能の設定」
- ◆ 51 ページの「ログインスクリプトの設定」
- ◆ 52 ページの「リモートユーザのログイン時間制限」

ユーザアカウントの作成

ユーザアカウントは、eDirectory ツリーのユーザオブジェクトです。ユーザオブジェクトには、ユーザのログイン名を指定します。ネットワークリソースへのユーザのアクセスを制御するために eDirectory と NetWare® が使用する情報も、ユーザオブジェクトで提供します。ユーザオブジェクトを作成する前にテンプレートにユーザプロパティを定義しておくことができます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 48 ページの「ユーザオブジェクトを作成する」
- ◆ 48 ページの「ユーザテンプレートを作成する」

ユーザオブジェクトを作成する

- 1 ユーザオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規作成] > [ユーザ] の順にクリックします。
- 2 [新規ユーザ] ダイアログボックスに必要な事項を入力します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
 - 2a ユーザオブジェクトの作成時にテンプレートを適用するには、[テンプレートを使用] を選択します。
 - 2b ユーザオブジェクトの作成時にその他のユーザプロパティを設定するには、[作成後に詳細を設定] を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 [パスワードの設定] ダイアログボックスが表示された場合は、ユーザのログインパスワードを設定し、[OK] をクリックします。
重要: このダイアログボックスが表示されたときにキャンセルすると、ユーザアカウントの eDirectory パスワード (オブジェクトとキーの組み合わせ) が作成されません。この場合、NMAS パスワードなど他の認証方法を設定しない限り、ユーザはログインできなくなります。eDirectory パスワードは、後でユーザオブジェクトの [パスワード制限] プロパティページで設定できます。パスワードフィールドを空白のままにして [OK] をクリックすると、eDirectory パスワードが空白 (ヌル) としてユーザオブジェクトが作成され、ユーザはパスワードを入力せずにログインできます。

ユーザテンプレートを作成する

- 1 テンプレートオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 2 [クラス] で、テンプレートを選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [新規テンプレート] ダイアログボックスに必要な事項を入力します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
 - 3a 既存のテンプレートオブジェクトまたはユーザオブジェクトを複製するには、[テンプレートまたはユーザを使用する] を選択します。
 - 3b テンプレートオブジェクトの作成直後にテンプレートプロパティを設定するには、[作成後に詳細を設定] を選択します。
[OK] をクリックすると、ユーザオブジェクトのプロパティページと類似したページが表示されます。すべてのプロパティページについてヘルプを参照できます。
- 4 [OK] をクリックします。

オプションのアカウント機能の設定

ユーザオブジェクトを作成した後で、ユーザのネットワークコンピューティング環境を設定したり、別途用意されているログインセキュリティ機能を実装したり、またユーザが NetWare サーバを使用するためのアカウントを設定することができます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 49 ページの「ユーザのネットワークコンピューティング環境を設定する」
- ◆ 49 ページの「別途用意されているログインセキュリティを設定する」
- ◆ 50 ページの「ユーザの NetWare サーバ使用アカウントを設定する」

ユーザのネットワークコンピューティング環境を設定する

- 1 ネットワークコンピューティング環境を設定するユーザオブジェクトまたはテンプレートオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

まだユーザオブジェクトを作成していない場合は、テンプレートオブジェクトを使用します。

- 2 [一般] タブの [使用環境] ページを選択します。
- 3 プロパティページに必要事項を入力します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 4 [OK] をクリックします。

別途用意されているログインセキュリティを設定する

- 1 ログインセキュリティを設定するユーザオブジェクトまたはテンプレートオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

まだユーザオブジェクトを作成していない場合は、テンプレートオブジェクトを使用します。

- 2 [制限] タブで、目的のプロパティページに必要事項を入力します。
プロパティページの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

ページ	用途
[パスワード制限]	ログインパスワードを設定します。
[アドレス制限]	ユーザがログインを実行できる場所を制限します。
[ログイン時間制限]	ユーザがログインできる時間を制限します。リモートログインするユーザの時間を制限する場合は、 52 ページの「リモートユーザのログイン時間制限」 を参照してください。
[ログイン制限]	<ul style="list-style-type: none"> 同時ログインセッションの数を制限します。 ログインの有効期限とロックアウトの日付を設定します。

- 3 [OK] をクリックします。
- 4 コンテナ内のすべてのユーザオブジェクトに対して不正侵入者検出を設定するには、次の手順を実行します。
 - 4a 目的のコンテナを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
 - 4b [一般] タブの [不正侵入者検出] ページを選択します。
 - 4c プロパティページに必要事項を入力します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
 - 4d [OK] をクリックします。

ユーザの NetWare サーバ使用アカウントを設定する

- 1 アカウントを設定するユーザオブジェクトまたはテンプレートオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
まだユーザオブジェクトを作成していない場合は、テンプレートオブジェクトを使用します。
- 2 [制限] タブの [アカウントバランス] ページを選択します。
- 3 プロパティページに必要事項を入力します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 ネットワークサービスに対して課金するように NetWare サーバを設定するには、NetWare アドミニストレータを使用します。

詳細については、NetWare アドミニストレータのオンラインヘルプを参照してください。

ログインスクリプトの設定

ログインスクリプトは、ユーザがログインしたときに実行されるコマンドを記述したリストです。通常、ファイルやプリンタなどのネットワークリソースとユーザを接続するために使用します。ログインスクリプトは、ユーザのワークステーション上で次の順序で実行されます。

1. コンテナログインスクリプト
2. プロファイルログインスクリプト
3. ユーザログインスクリプト

ログイン時に、特定のログインスクリプトが検出されない場合、そのスクリプトはスキップされて次のスクリプトが実行されます。どのログインスクリプトも検出されない場合は、デフォルトのスクリプトが実行されます。このスクリプトは、ユーザのデフォルトサーバ上にある `SYS:PUBLIC` フォルダにサーチドライブをマップします。デフォルトのサーバは、ユーザオブジェクトの [使用環境] プロパティページで設定されています。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ [51 ページの「ログインスクリプトを作成する」](#)
- ◆ [52 ページの「プロファイルをユーザに割り当てる」](#)

ログインスクリプトを作成する

- 1 ログインスクリプトを作成するオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

ログインスクリプトの適用対象	ログインスクリプトの作成先
1 人のユーザのみ	ユーザオブジェクト
まだ作成されていない 1 人または複数のユーザ	テンプレートオブジェクト
コンテナ内のすべてのユーザ	コンテナオブジェクト
1 つまたは複数のコンテナに含まれる一組のユーザ	プロファイルオブジェクト

- 2 [ログインスクリプト] ページで、目的のログインスクリプトコマンドを入力します。

詳細については、『Novell Client for Windows』の「Login Script Commands and Variables (<http://www.novell.com/documentation/japanese/noclienu/docui/index.html#../noclienu/data/ho2m1x3b.html>)」を参照してください。

- 3 [OK] をクリックします。
- 4 プロファイルオブジェクトにログインスクリプトを作成した場合は、次の説明に従ってそのプロファイルを目的のユーザに割り当てます。

プロファイルをユーザに割り当てる

- 1 プロファイルを割り当てるユーザオブジェクトまたはテンプレートオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
まだユーザオブジェクトを作成していない場合は、テンプレートオブジェクトを使用します。
- 2 [ログインスクリプト] ページで、[プロファイル] フィールドの横にある [参照] ボタンをクリックします。目的のプロファイルオブジェクトを選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 プロファイルオブジェクトをブラウズする権利と、プロファイルオブジェクトの [ログインスクリプト] プロパティを読み込む権利が、ユーザに正しく付与されていることを確認します。

詳細については、61 ページの「有効な権利の表示」を参照してください。

リモートユーザのログイン時間制限

ユーザオブジェクトの [ログイン時間制限] プロパティページでは、ユーザが eDirectory にログインできる時間を制限できます (デフォルトでは、ログイン時間の制限はありません)。ログイン時間制限を設定した場合、制限時間に達してもユーザがログインしていると、5分以内にログアウトすることを指示する警告がそのユーザに対して発行されます。5分経過してもユーザがログインしていると、そのユーザは自動的にログアウトされ、保存していない作業内容は失われます。

ログイン要求を処理するサーバとタイムゾーンが異なる地域からユーザがリモートログインする場合、そのユーザに対してログイン時間制限を設定していると、時差が調整されます。たとえば、あるユーザに対して毎週月曜日の午前1時から午前6時までログインを制限し、そのユーザがログインを処理するサーバの時刻よりも1時間進んでいるタイムゾーンからリモートログインするとします。この場合、このユーザに対する実際の制限時間は午前2時から午前7時になります。

4

権利の管理

権利とは、アクセスを制限するために個々のネットワークリソースに設定できるシステムフラグです。権利を割り当てるときは、その権利をトラスティ (所有者) となる Novell® eDirectory™ オブジェクト (ユーザやグループなど) にリンクさせます。ConsoleOne™ では、次の 2 種類のリソースにトラスティ権を付与できます。

- ◆ eDirectory オブジェクト

これらのリソースに対する権利は、eDirectory が格納および適用します。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「**eDirectory 権利**」を参照してください。

- ◆ NetWare® ボリュームのファイルとフォルダ

これらのリソースに対する権利は、NetWare ファイルシステムが格納および適用します。詳細については、**62 ページ**の「**NetWare 権利について**」を参照してください。

ユーザがリソースにアクセスしようとする時、システム (eDirectory または NetWare) はそのリソースに対するユーザの有効な権利を判断します。この場合システムが調べるのは、ユーザの明示的な権利割り当てだけではありません。ユーザが保持する同等セキュリティや、明示的な権利割り当ての継承を阻止するフィルタがあれば、それらも調べます。この章では、リソースに対するユーザの有効な権利を制御する方法について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- ◆ **54 ページ**の「明示的な権利の割り当て」
- ◆ **58 ページ**の「同等セキュリティの付与」
- ◆ **60 ページ**の「継承の阻止」
- ◆ **61 ページ**の「有効な権利の表示」
- ◆ **62 ページ**の「NetWare 権利について」

明示的な権利の割り当て

eDirectory ツリーのデフォルトの権利割り当てで、ユーザに認めるリソースへのアクセスが多すぎたり不十分であったりする場合、明示的な権利割り当てを作成または変更することができます。権利割り当てを作成または変更するときは、まず、アクセスを制御しようとしているリソースまたはトラスティ (権利の所有者またはこれから所有者になる eDirectory オブジェクト) を選択します。

ヒント: ユーザの権利を個別にではなく一括して管理するには、グループオブジェクト、役割オブジェクト、またはコンテナオブジェクトをトラスティにします。リソースへのアクセスをグローバルに (全ユーザに対して) 制限するには、[60 ページの「継承の阻止」](#)を参照してください。リソースが NetWare ボリューム上のファイルまたはフォルダである場合には、属性を設定することによってアクセスをグローバルに制御できます ([98 ページの「サーバとファイルシステムの情報の表示と変更」](#)を参照してください)。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ [54 ページの「NetWare ファイルシステムへのアクセスをリソース別に制御する」](#)
- ◆ [55 ページの「NetWare ファイルシステムへのアクセスをトラスティ別に制御する」](#)
- ◆ [56 ページの「Novell eDirectory へのアクセスをリソース別に制御する」](#)
- ◆ [57 ページの「Novell eDirectory へのアクセスをトラスティ別に制御する」](#)

NetWare ファイルシステムへのアクセスをリソース別に制御する

- 1 アクセスを制御するリソース (ファイル、フォルダ、またはボリューム) を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

注: ボリュームやフォルダを選択すると、それよりも下位のリソースに対するアクセスをまとめて制御できます。

- 2 [トラスティ] ページで、トラスティとその権利割り当てのリストを必要に応じて編集します。

個々のアクセス権の説明については、[62 ページの「NetWare 権利について」](#)を参照してください。

- 2a オブジェクトをトラスティとして追加するには、[トラスティの追加] をクリックし、目的のオブジェクトを選択して [OK] をクリックします。次に [アクセス権] でトラスティの権利を割り当てます。

2b トラスティの権利割り当てを変更するには、目的のトラスティを選択します。次に [アクセス権] で、権利割り当てを必要に応じて変更します。

2c オブジェクトのトラスティを削除するには、目的のオブジェクトを選択してから、[トラスティの削除] > [はい] の順にクリックします。

削除したトラスティに付与されていた、ファイルまたはフォルダに対する明示的な権利は削除されますが、継承または同等セキュリティを介した有効な権利が残る場合があります。

3 [OK] をクリックします。

NetWare ファイルシステムへのアクセスをトラスティ別に制御する

1 目的のトラスティ (権利の所有者またはこれから所有者になるオブジェクト) を右クリックし、[プロパティ] を選択します。

2 [ファイル/フォルダへの権利] ページで、[表示] をクリックします。アクセスを制御したい NetWare ファイルシステムが含まれている NetWare ボリュームを選択し、[OK] をクリックします。

[ファイルとフォルダ] リストには、選択した NetWare ボリューム上のファイルとフォルダのうち、目的のトラスティが権利割り当てを持っているものが表示されます。

3 権利割り当てを必要に応じて編集します。

個々の権利の説明については、[62 ページ](#)の「**NetWare 権利について**」を参照してください。

3a 権利割り当てを追加するには、[追加] をクリックし、アクセスを制御するファイルまたはフォルダを選択して、[OK] をクリックします。次に [権利] で、トラスティの権利を割り当てます。

3b 権利割り当てを変更するには、アクセスを制御するファイルまたはフォルダを選択します。次に [権利] で、トラスティの権利を必要に応じて変更します。

3c 権利割り当てを削除するには、アクセスを制御するファイルまたはフォルダを選択し、[削除] > [はい] の順にクリックします。

トラスティに付与されていた、ファイルまたはフォルダに対する明示的な権利は削除されますが、継承または同等セキュリティを介した有効な権利が残る場合があります。

- 4 他の NetWare ボリュームでトラスティの権利割り当てを編集する場合は、**手順 2** と **手順 3** を繰り返します。
- 5 [OK] をクリックします。

Novell eDirectory へのアクセスをリソース別に制御する

- 1 アクセスを制御する eDirectory リソース(オブジェクト)を右クリックし、[このオブジェクトのトラスティ割り当て] をクリックします。

注: コンテナを選択すると、その内部のオブジェクトに対するアクセスをまとめて制御できます。

- 2 トラスティとその権利割り当てのリストを必要に応じて編集します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

2a トラスティの権利割り当てを変更するには、目的のトラスティを選択します。次に [割り当てられた権利] をクリックし、権利割り当てを必要に応じて変更して、[OK] をクリックします。

2b オブジェクトをトラスティとして追加するには、[トラスティの追加] をクリックし、目的のオブジェクトを選択して [OK] をクリックします。次にトラスティの権利を割り当て、[OK] をクリックします。

[権利割り当て先] ダイアログボックスで権利割り当てを作成または変更すると、オブジェクト全体、オブジェクトのすべてのプロパティ、および個々のプロパティに対してアクセスを付与または拒否できます。詳細については、ダイアログボックスの [ヘルプ] をクリックしてください。

2c オブジェクトのトラスティを削除するには、目的のオブジェクトを選択してから、[トラスティの削除] > [はい] の順にクリックします。

削除したトラスティに付与されていた、オブジェクトまたはそのプロパティに対する明示的な権利は削除されますが、継承または同等セキュリティを介した有効な権利が残る場合があります。

- 3 [OK] をクリックします。

Novell eDirectory へのアクセスをトラスティ別に制御する

- 1** 目的のトラスティ (権利の所有者またはこれから所有者になるオブジェクト) を右クリックし、[他のオブジェクトに対する権利] を選択します。
- 2** トラスティが現在所有する権利割り当ての対象となる eDirectory オブジェクトを検索するために、検索のダイアログボックスで検索対象の eDirectory ツリーの一部を指定します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 3** 検索のダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
検索の進捗状況を示すダイアログボックスが表示されます。検索が終わると、[他のオブジェクトに対する権利] ページが開き、検索結果が表示されます。
- 4** トラスティの eDirectory 権利割り当てを必要に応じて編集します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
 - 4a** 権利割り当てを追加するには、[オブジェクトの追加] をクリックし、アクセスを制御したいオブジェクトを選択して、[OK] をクリックします。次にトラスティの権利を割り当て、[OK] をクリックします。
 - 4b** 権利割り当てを変更するには、アクセスを制御するオブジェクトを選択します。次に [割り当てられた権利] をクリックし、目的のトラスティの権利割り当てを必要に応じて変更して、[OK] をクリックします。
[権利割り当て先] ダイアログボックスで権利割り当てを作成または変更すると、オブジェクト全体、オブジェクトのすべてのプロパティ、および個々のプロパティに対してアクセスを付与または拒否できます。詳細については、ダイアログボックスの [ヘルプ] をクリックしてください。
 - 4c** 権利割り当てを削除するには、アクセスを制御するオブジェクトを選択し、[オブジェクトの削除] > [はい] の順にクリックします。
削除したトラスティに付与されていた、オブジェクトまたはそのプロパティに対する明示的な権利は削除されますが、継承または同等セキュリティを介した有効な権利が残る場合があります。
- 5** [OK] をクリックします。

同等セキュリティの付与

ユーザに、別の eDirectory オブジェクトの同等セキュリティが付与されていると、そのユーザは eDirectory と NetWare ファイルシステムの両方で、その eDirectory オブジェクトに対するすべての権利を所有していることになります。ユーザには、自動的に、所属するグループおよび役割の同等セキュリティが付与されます。すべてのユーザには、[Public] トラストティに対する同等セキュリティ、および eDirectory ツリーで自分のユーザオブジェクトよりも上位にある各コンテナ(ツリーオブジェクトも含む)に対する同等セキュリティが、暗黙的に付与されます。どの eDirectory オブジェクトの同等セキュリティでもユーザに明示的に付与できます。

注: このセクションで取り上げる作業では、eDirectory 権利を付与することで管理権限を委任できます。RBS 役割を使用する管理アプリケーションがあれば、69 ページの「RBS 役割のメンバーシップとスコープの割り当て」の説明に従って、RBS 役割のメンバーシップをユーザに割り当てることで管理権限を委任することもできます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 58 ページの「メンバーシップにより同等セキュリティを付与する」
- ◆ 59 ページの「同等セキュリティを明示的に付与する」
- ◆ 59 ページの「オブジェクト固有の eDirectory プロパティに対して管理者を設定する」

メンバーシップにより同等セキュリティを付与する

- 1 ユーザにどのグループオブジェクトまたは役割オブジェクトの同等セキュリティを付与するかを決め、そのオブジェクトをまだ作成していなければ作成します。

詳細については、35 ページの「オブジェクトの作成と操作」を参照してください。

- 2 ユーザに所有させる eDirectory 権利および NetWare 権利をそのグループまたは役割に付与します。

詳細については、54 ページの「明示的な権利の割り当て」を参照してください。

- 3 グループまたは役割のメンバーシップを編集して、そのグループまたは役割の権利を必要としているユーザを含めます。

- ◆ グループオブジェクトの場合、[メンバー] プロパティページを使用します。

- ◆ 役割オブジェクトの場合、[識別] プロパティページの [担当者] フィールドを使用します。
- ◆ RBS 役割オブジェクトの場合、[役割のメンバー] プロパティページを使用します。

詳細については、69 ページの「RBS 役割のメンバーシップとスコープの割り当て」を参照してください。

4 [OK] をクリックします。

同等セキュリティを明示的に付与する

1 目的のユーザ、またはそのユーザに付与する同等セキュリティの対象となるオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

2 同等セキュリティを付与する手順は次のとおりです。

- ◆ ユーザを選択した場合は、[メンバーシップ] タブで [同等セキュリティ] ページを選択し、[追加] をクリックします。次にユーザに付与する同等セキュリティの対象となるオブジェクトを選択し、[OK] をクリックします。
- ◆ ユーザに付与する同等セキュリティの対象となるオブジェクトを選択した場合は、[同等セキュリティ保有者] ページで [追加] をクリックします。次にユーザを選択して、[OK] をクリックします。

これら 2 つのプロパティページの内容は、システムによって同期が取られます。

3 [OK] をクリックします。

オブジェクト固有の eDirectory プロパティに対して管理者を設定する

1 オブジェクト固有のプロパティのトラスティに設定するユーザオブジェクト、グループオブジェクト、役割オブジェクト、またはコンテナオブジェクトを決め、そのオブジェクトをまだ作成していなければ作成します。

コンテナをトラスティとして作成すると、コンテナ内のすべてのオブジェクトに権利が付与されます。プロパティを継承可能に設定する必要があります。この設定をしないと、コンテナとそのメンバーは該当するレベル以下の権利を保持できません。

2 管理者によって管理させる最上位のコンテナを右クリックし、[このオブジェクトのトラスティ割り当て] をクリックします。

- 3 プロパティページで [トラスティの追加] をクリックし、その管理者を表すオブジェクトを選択して [OK] をクリックします。
- 4 [権利割り当て先] ダイアログボックスで、[プロパティの追加] をクリックします。
- 5 [プロパティをすべて表示] チェックボックスをオフにします。
- 6 管理者が管理するプロパティごとに、必要な権利を割り当てます。
権利割り当てごとに [継承可能] チェックボックスをオンにします。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [プロパティ] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。

継承の阻止

eDirectory では、コンテナに対する権利割り当てを継承することができ、また継承しないようにすることもできます。NetWare ファイルシステムでは、フォルダに対する権利割り当てはすべて継承できます。eDirectory と NetWare のどちらでも、個々の従属項目に対するこのような継承を阻止できません。このため、トラスティとは無関係に、従属項目に対する権利を無効にすることができます。ただし唯一の例外として、NetWare ファイルシステムではスーパーバイザ権を阻止できません。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 60 ページの「NetWare ボリュームのファイルまたはフォルダへの権利継承を阻止する」
- ◆ 61 ページの「eDirectory オブジェクトまたは eDirectory プロパティへの権利継承を阻止する」

NetWare ボリュームのファイルまたはフォルダへの権利継承を阻止する

- 1 目的のファイルまたはフォルダを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [権利継承フィルタ] ページで、必要に応じてフィルタを編集します。

権利を阻止するには、その権利のチェックボックスをオフにします。権利を継承するには、その権利のチェックボックスをオンにします。スーパーバイザ権を阻止することはできません。ファイルまたはフォルダに対するスーパーバイザ権またはアクセス制御権がない場合は、他のチェックボックスは無効になっています。個々の権利の説明については、62 ページの「NetWare 権利について」を参照してください。

注：ファイルまたはフォルダに対する権利がトラスティに明示的に付与されている場合、このフィルタはその権利を阻止しません。このような権利は継承されないからです。

- 3 [OK] をクリックします。

eDirectory オブジェクトまたは eDirectory プロパティへの権利継承を阻止する

- 1 目的の eDirectory オブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

- 2 [NDS 権利] タブの [権利継承フィルタ] ページを選択します。

オブジェクトに対してすでに設定されている権利継承フィルタのリストが表示されます。

- 3 プロパティページで、権利継承フィルタのリストを必要に応じて編集します。

フィルタのリストを編集するには、オブジェクトの ACL プロパティに対するスーパーバイザ権またはアクセス制御権が必要です。オブジェクト全体、オブジェクトのすべてのプロパティ、および個々のプロパティへの権利継承をそれぞれ阻止するフィルタを設定できます。詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

注：オブジェクトに対する権利がトラスティに明示的に付与されている場合、これらのフィルタはその権利を阻止しません。このような権利は継承されないからです。

- 4 [OK] をクリックします。

有効な権利の表示

有効な権利とは、ユーザが特定のネットワークリソースに対して実際に行使できる権利のことです。明示的な権利割り当て、継承、および同等セキュリティに基づいて、システム (eDirectory または NetWare) が有効な権利を判断します。したがって、システムに問い合わせれば、リソースに対するユーザの有効な権利を確認できます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 62 ページの「NetWare ボリュームのファイルまたはフォルダに対する有効な権利を表示する」
- ◆ 62 ページの「eDirectory オブジェクトまたは eDirectory プロパティに対する有効な権利を表示する」

NetWare ボリュームのファイルまたはフォルダに対する有効な権利を表示する

- 1 目的のファイル、フォルダ、またはボリュームを右クリックし、
[プロパティ] をクリックします。

ボリュームを選択すると、ファイルシステムのルートに対する有効な権利を表示できます。
- 2 [トラスティ] ページの [有効な権利] をクリックします。
- 3 有効な権利を表示するオブジェクトが [トラスティ] フィールドにない場合は、このフィールドの横にある [参照] ボタンをクリックし、目的のトラスティを選択して、[OK] をクリックします。
- 4 有効な権利が表示されます。

個々の権利の説明については、[62 ページの「NetWare 権利について」](#)を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

eDirectory オブジェクトまたは eDirectory プロパティに対する有効な権利を表示する

- 1 目的の eDirectory オブジェクトを右クリックし、[このオブジェクトのトラスティ割り当て] をクリックします。
- 2 [NDS 権利] タブの [有効な権利] ページを選択します。
- 3 有効な権利を表示するオブジェクトが [トラスティ] フィールドにない場合は、このフィールドの横にある [参照] ボタンをクリックし、目的のトラスティを選択して、[OK] をクリックします。
- 4 有効な権利が表示されます。

オブジェクト全体、オブジェクトのすべてのプロパティ、および個々のプロパティに対する有効な権利を表示できます。詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 5 [OK] をクリックします。

NetWare 権利について

このセクションでは、ユーザが NetWare ボリュームのファイルとフォルダに対して所有できる権利、およびこのような権利の発生源について説明します。また、ファイルとフォルダに対するユーザの有効な権利を、NetWare ファイルシステムが判断する方法についても説明します。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 63 ページの「権利の説明」
- ◆ 64 ページの「権利の発生源」
- ◆ 64 ページの「NetWare による有効な権利の判断」

権利の説明

次の表は、トラスティが NetWare ボリュームのファイルまたはフォルダに対して所有できる権利についてまとめたものです。

権利	説明
スーパーバイザ	ファイルまたはフォルダ、および従属項目に対するすべての権利をトラスティに付与します。現在のファイル、フォルダ、または従属項目に対してこの権利をフィルタ処理 (ブロック) することはできません。個々の従属項目に対してこの権利を取り消すこともできません。
読み込み	ファイルまたはフォルダ、および従属項目を開いて読み込む権利をトラスティに付与します。プログラムファイルを実行することもできます。
書き込み	ファイルまたはフォルダ、および従属項目を開いて書き込む (変更する) 権利をトラスティに付与します。
作成	項目の新規作成や、フォルダおよびサブフォルダ内で削除された項目のサルベージを実行できる権利をトラスティに付与します。
継承可能	選択したプロパティフローに対する権利をすべての下位オブジェクトに付与します。
削除	ファイルまたはフォルダ、および従属項目を削除する権利をトラスティに付与します。
変更	ファイルまたはフォルダ、および従属項目の名前と属性を変更できる権利をトラスティに付与します。トラスティがファイルの実際の内容を表示したり変更したりすることはできません。
ファイルスキャン	ファイルまたはフォルダ、および従属項目を表示 (リストまたはブラウザ形式) できる権利をトラスティに付与します。ボリュームのルートへのパスも表示できます。
アクセス制御	ファイルまたはフォルダのトラスティ (権利) 割り当ておよび権利継承フィルタを変更できる権利をトラスティに付与します。

権利の発生源

ファイルまたはフォルダに複数の権利割り当てを関連付けて、それぞれを異なるトラスティ(権利の所有者)とリンクさせることができます。フォルダに対する権利はそのフォルダ内の項目(従属項目)に継承されるので、フォルダのトラスティは明示的な割り当てがなくても従属項目に対する権利を行使できます。ただし、個々の従属項目に対してフィルタを設定し、特定の権利の継承を阻止することもできます。このようなフィルタは、指定した権利を保持するすべてのトラスティにグローバルに適用されます。

ファイルまたはフォルダに対して、ユーザは、明示的な権利および継承された権利だけでなく、別の eDirectory オブジェクトの同等セキュリティを介した権利も所有することができます。たとえば、ユーザが eDirectory グループまたは eDirectory 役割のメンバーであり、そのグループまたは役割に権利が付与されている場合、同等セキュリティを介して、それらの権利がユーザに有効な権利として追加されます。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「eDirectory 権利」を参照してください。

NetWare による有効な権利の判断

ユーザが NetWare ボリュームのファイルまたはフォルダにアクセスするたびに、そのユーザの有効な権利が NetWare によって判断されます。ファイルまたはフォルダに対するユーザの有効な権利は、61 ページの「有効な権利の表示」の説明に従って表示できます。次に、NetWare が有効な権利をどのような手順で判断するかを説明します。

この手順は、eDirectory が eDirectory オブジェクトおよび eDirectory プロパティに対するユーザの有効な権利を判断する場合の手順と類似していますが、まったく同じというわけではありません。eDirectory による手順については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「eDirectory 権利」を参照してください。

1. 目的のファイルまたはフォルダが保存されている NetWare サーバに対して、ユーザが有効なスーパーバイザ権を所有しているかどうかを調べます。eDirectory がこの情報を NetWare に提供します。
 - ◆ スーパーバイザ権を所有していれば、ユーザは NetWare サーバのファイルシステムに対してすべての権利を所有していることになり、残りの手順はスキップされます。
 - ◆ スーパーバイザ権を所有していなければ、次の手順を実行します。
2. ユーザがどの eDirectory オブジェクトの同等セキュリティを付与されているかを調べます。eDirectory がこの情報を NetWare に提供します。

3. 目的のファイルまたはフォルダへのパスに従って、ファイルシステム内の次のレベルに下がります。

ヒント: NetWare サーバの 1 つ下のレベルにあるのは、ボリュームのルートフォルダです。

4. ユーザ、またはユーザに付与されている同等セキュリティの対象となるオブジェクトのいずれかに、現在のレベルに対するスーパーバイザ権が割り当てられているかどうかを調べます。
 - ◆ スーパーバイザ権が割り当てられていれば、ユーザは NetWare ファイルシステムで、このレベルよりも下位の項目に対してすべての権利を所有していることになり、残りの手順はスキップされます。
 - ◆ スーパーバイザ権が割り当てられていなければ、次の手順を実行します。
5. ユーザ、およびユーザに付与されている同等セキュリティの対象となる各オブジェクトに対して、次の処理を実行します。
 - a. ユーザ (またはオブジェクト) に、現在のレベルに対するスーパーバイザ権以外の権利が割り当てられているかどうかを調べます。割り当てられていれば、権利割り当てに指定されている権利をユーザ (またはオブジェクト) の有効な権利として設定し、手順 6 にスキップします。割り当てられていなければ、次の手順を実行します。
 - b. 現在の有効な権利から、現在のレベルに対する継承フィルタによって阻止される権利を削除します。
6. ファイルシステムの現在のレベルが目的のファイルまたはフォルダであれば、最終的にユーザの有効な権利となるのは、ユーザの現在の有効な権利と、ユーザに付与されている同等セキュリティの対象となる各オブジェクトの現在の有効な権利を合わせたものです。目的のファイルまたはフォルダにまだ達していない場合は、手順 3 に戻ります。

5

ロールベース管理の設定

ConsoleOne™ では、Novell® eDirectory™ ツリーのスキーマを拡張して、ロールベースサービス (RBS) オブジェクトを作成できます。これにより、管理アプリケーションの機能を RBS モジュールオブジェクトおよび RBS タスクオブジェクトとしてツリーに公開できます。次に、RBS 役割オブジェクトを作成して、管理アプリケーションで複数のユーザが実行できる特定のタスクを定義できます。

注：このような管理作業の委任が行えるのは、管理アプリケーションが RBS オブジェクトを使用している場合だけです。eDirectory 権利を使用して管理を委任することもできます。詳細については、[58 ページの「同等セキュリティの付与」](#)を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- ◆ [67 ページの「ロールベースサービスの設定」](#)
- ◆ [68 ページの「RBS 役割の定義」](#)
- ◆ [69 ページの「RBS 役割のメンバーシップとスコープの割り当て」](#)
- ◆ [70 ページの「独自のアプリケーション用 RBS オブジェクトの作成」](#)

ロールベースサービスの設定

管理アプリケーションが eDirectory ツリーに RBS オブジェクトを追加できるようにする場合は、あらかじめ eDirectory ツリーのスキーマを拡張して RBS オブジェクトタイプを許可しておく必要があります。通常、このスキーマの拡張は管理アプリケーションのインストール時に自動的に行われます。ただし、次の手順を実行すると、必要なスキーマ拡張をツリーに確実に施すことができます。

eDirectory ツリーに RBS スキーマ拡張をインストールする

- 1 eDirectory ツリーの任意の場所をクリックします。
- 2 [ツール] > [インストール] の順にクリックします。
- 3 ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。
2 番目の画面で [ロールベースサービス] を選択します。ウィザードの各段階で、[ヘルプ] が利用できます。

RBS 役割の定義

RBS 役割では、ユーザが特定の管理アプリケーションで実行が認められているタスクを指定します。RBS 役割の定義では、RBS 役割オブジェクトを作成し、役割が実行できるタスクを指定します。管理アプリケーション側に、変更可能な定義済み RBS 役割オブジェクトがいくつか用意されている場合もあります。

RBS 役割が実行できるアプリケーションタスクは、RBS タスクオブジェクトとして eDirectory ツリーに公開されます。RBS タスクオブジェクトは、管理アプリケーションのインストール時に自動的に追加されます。追加された RBS タスクオブジェクトは、1 つまたは複数の RBS モジュールに編成されます。RBS モジュールは、管理アプリケーションのさまざまな機能モジュールに対応しているコンテナです。

ヒント: RBS オブジェクトを使用する管理アプリケーションを組織が独自に開発している場合は、その管理アプリケーション向けの RBS オブジェクトを手動で作成できます。詳細については、[70 ページの「独自のアプリケーション用 RBS オブジェクトの作成」](#)を参照してください。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ [68 ページの「RBS 役割オブジェクトを作成する」](#)
- ◆ [69 ページの「RBS 役割が実行できるタスクを指定する」](#)

RBS 役割オブジェクトを作成する

- 1 RBS 役割オブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 2 [クラス] で、RBS: 役割を選択し、[OK] をクリックします。
- 3 新規の RBS 役割オブジェクトの名前を入力します。

eDirectory 命名規定に従って正確に名前を入力します (詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「[命名規定](#)」を参照してください)。

例: Password Administrator Role

4 [OK] をクリックします。

RBS 役割が実行できるタスクを指定する

1 RBS 役割オブジェクトまたは RBS タスクオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

RBS タスクオブジェクトは、RBS モジュールコンテナ内にだけ収められています。

2 [ロールベースサービス] タブで、必要な関連付けを行います。

- ◆ RBS 役割の場合は、[役割の内容] ページを選択し、RBS 役割が実行できるタスクのリストを編集します。
- ◆ RBS タスクの場合は、[所属] ページを選択し、そのタスクを実行できる役割のリストを編集します。

3 [OK] をクリックします。

RBS 役割のメンバーシップとスコープの割り当て

組織に必要な RBS 役割を定義すると、役割ごとにメンバーシップを割り当てることができます。この場合、各メンバーが役割の機能を実行できるスコープを指定します。スコープの指定方法は、役割の機能に関連付けられた管理アプリケーションによって異なります。eDirectory ツリーのコンテキストとして指定するか、他の種類 (eDirectory 以外) のスコープを表すオブジェクトとして指定します。

ヒント: 管理アプリケーション側でスコープを eDirectory 以外の用語で定義している場合があります。この場合、管理アプリケーションは、eDirectory ツリーのスキーマを拡張して、スコープの定義に必要なスコープオブジェクトクラスを含みます。このクラスが含まれていれば、74 ページの「eDirectory 以外のスコープを表すオブジェクトを作成する」の説明に従って、スコープオブジェクトを作成できます。

1 目的の RBS 役割オブジェクト、または役割メンバーとして割り当てるユーザを表すオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

ユーザ個人、グループ単位、組織単位、または部門単位で、ユーザを役割メンバーとして割り当てることができます。ただし、役割を実行するスコープがユーザごとに異なる場合は、ユーザを個々に役割メンバーとして割り当てる必要があります。

2 [ロールベースサービス] タブで、目的の役割メンバーを割り当てます。

- ◆ RBS 役割オブジェクトの場合は、[役割のメンバー] ページを選択し、メンバーとスコープのリストを必要に応じて編集します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- ◆ ユーザ、グループ、組織、部門の各オブジェクトの場合は、[割り当て役割] ページを選択し、役割メンバーとスコープのリストを必要に応じて編集します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

単一の役割メンバーに重複しない複数のスコープ (eDirectory ツリーの 2 種類のブランチなど) を割り当てる場合は、異なるスコープごとに複数回その役割メンバーをリストに表示させる必要があります。

3 [OK] をクリックします。

独自のアプリケーション用 RBS オブジェクトの作成

通常、RBS オブジェクトを使用する管理アプリケーションは、インストール時に必要なオブジェクトを自動的に eDirectory ツリーに追加します。ただし、RBS オブジェクトを使用する管理アプリケーションを組織が独自に開発している場合は、必要な RBS オブジェクトを手動で作成できます。作成できる RBS オブジェクトのタイプは次のとおりです。

オブジェクトタイプ	コンテナ/リーフ	用途	例
モジュール	コンテナ	管理アプリケーションのモジュールを表します。アプリケーションタスクを論理的に含み、一意に識別できます。	アプリケーションの中には、ユーザモジュールとサーバモジュールに作成タスクをそれぞれ含むものもあります。
タスク	リーフ	アプリケーションの特定の機能を表します。	ログインパスワードをリセットします。
スコープ	リーフ	アプリケーションが eDirectory 以外の用語でスコープを定義している場合、役割メンバーが役割の機能を行使できるスコープを表します。 注: スコープオブジェクトを作成する場合、eDirectory ツリーのスキーマにスコープオブジェクトクラスが存在する必要があります。スコープクラスは、RBS: 外部スコープのサブクラスです。	ドメインネームサービス (DNS) 用語でスコープを定義しているアプリケーションの中には、次のようなスコープオブジェクトを作成できるものもあります。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ com_xyz ◆ com_xyz_usa ◆ com_xyz_usa_ny

オブジェクト タイプ	コンテナ/ リーフ	用途	例
役割	リーフ	管理権を表します。役割メンバーが実行できるアプリケーションタスクのリストです。このオブジェクトタイプを作成するには、 68 ページの「RBS 役割の定義」 を参照してください。	独自の管理アプリケーションを使用する場合には、次のような役割を作成します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 権利マネージャ ◆ パスワード管理者 ◆ 雇用データエントリ

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ [72 ページの「RBS モジュールオブジェクトを作成する」](#)
- ◆ [73 ページの「RBS タスクオブジェクトを作成する」](#)
- ◆ [74 ページの「eDirectory 以外のスコープを表すオブジェクトを作成する」](#)

eDirectory 以外のスコープを表すオブジェクトを作成する

- 1 作成するオブジェクトのクラスを eDirectory ツリーのスキーマにまだ定義していない場合は、スキーママネージャを使用して定義します。
77 ページの「独自のオブジェクトクラスを定義する」を参照してください。

重要: クラス作成ウィザードが完了したら、有効なクラスフラグを設定し、継承元のクラスとして RBS: 外部スコープを選択します。

- 2 スコープオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 3 [クラス] で、eDirectory 以外のスコープを表すオブジェクトクラスを選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [名前] に、スコープの名前を入力します。

eDirectory 命名規定に従って正確に名前を入力します (詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「命名規定」を参照してください)。

例: DNS Scope com_xyz_usa

- 5 管理アプリケーション側でのスコープオブジェクトの使用方法に応じて、適切な手順を実行します。

アプリケーションがオ 手順
ブジェクトを読み込ん
で実際のスコープの行
使を決定する

いいえ [OK] をクリックします。これで、スコープオブジェクトの作成は完了です。

- はい
1. [作成後に詳細を設定] を選択し、[OK] をクリックします。
 2. プロパティページで、アプリケーションが必要とするスコープ情報を指定します。特定のページの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
 3. [OK] をクリックします。
-

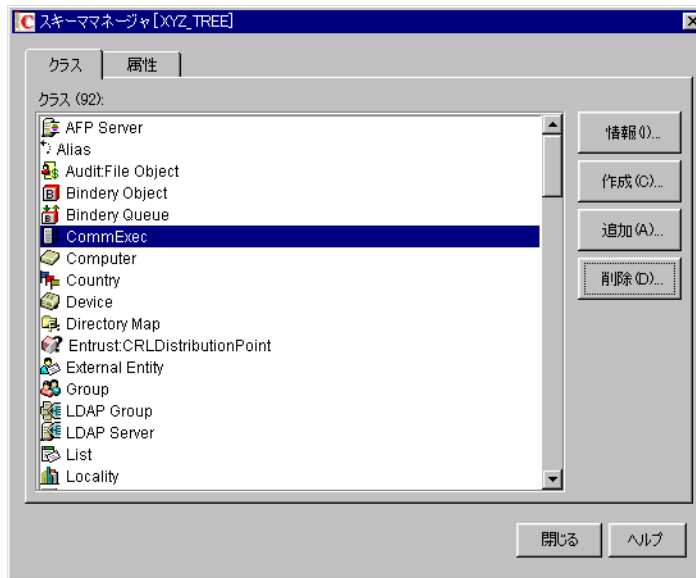
6

Novell eDirectory スキーマの拡張

Novell® eDirectory™ ツリーのスキーマには、このツリーに含めることができるオブジェクト(ユーザ、グループ、プリンタなど)のクラスを定義します。各オブジェクトタイプを構成するプロパティ(属性)を指定します。これらのプロパティには、オブジェクトの作成時に必要となるプロパティや、オプションとして選択できるプロパティなどがあります。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「**オブジェクトクラスとプロパティ**」および「**スキーマ**」を参照してください。

eDirectory ツリーのスキーマを拡張するには、ツリー全体に対するスーパーバイザ権利が必要です。現在のスキーマを表示するには、ツリー内の任意の場所をクリックし、[ツール] > [スキーママネージャ] の順にクリックします。利用可能なクラスとプロパティのリストが次のように表示されます。クラスまたはプロパティをダブルクリックすると、関連する情報が表示されます。

図 2 スキーママネージャ



スキーマを拡張するには、この章の該当するセクションを参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- ◆ 76 ページの「独自のオブジェクトクラスとプロパティの定義」
- ◆ 78 ページの「補助クラスの定義と使用」
- ◆ 83 ページの「未使用のクラスとプロパティの削除」

独自のオブジェクトクラスとプロパティの定義

独自のプロパティを定義し、必要であれば、それをオプションのプロパティとして既存のオブジェクトクラスに追加できます (必須のプロパティを既存のクラスに追加することはできません)。新規オブジェクトクラスを定義し、そのクラスに標準のプロパティとカスタムプロパティの両方を含めることもできます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 77 ページの「カスタムプロパティを定義する」
- ◆ 77 ページの「クラスにオプションのプロパティを追加する」
- ◆ 77 ページの「独自のオブジェクトクラスを定義する」

カスタムプロパティを定義する

- 1 スキーマを拡張する eDirectory ツリー内の任意の場所をクリックします。
- 2 [ツール] > [スキーママネージャ] の順にクリックします。
- 3 [属性] タブの [作成] をクリックします。
- 4 ウィザードの指示に従って、新しいプロパティを定義します。
ウィザードの各段階で、[ヘルプ] が利用できます。

クラスにオプションのプロパティを追加する

- 1 スキーマを拡張する eDirectory ツリー内の任意の場所をクリックします。
- 2 [ツール] > [スキーママネージャ] の順にクリックします。
- 3 [クラス] タブで、変更するクラスを選択し、[追加] をクリックします。
- 4 左側のリストで、追加するプロパティをダブルクリックします。
誤ってプロパティを追加した場合は、右側のリストでそのプロパティをダブルクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。
このクラスにオブジェクトを作成すると、ここで追加したプロパティを含むオブジェクトが作成されます。追加したプロパティの値を設定するには、オブジェクトの [その他] 一般プロパティページを使用します。

独自のオブジェクトクラスを定義する

- 1 スキーマを拡張する eDirectory ツリー内の任意の場所をクリックします。
- 2 [ツール] > [スキーママネージャ] の順にクリックします。
- 3 [クラス] タブの [作成] をクリックします。
- 4 ウィザードの指示に従って、オブジェクトクラスを定義します。
ウィザードの各段階で、[ヘルプ] が利用できます。

オブジェクトクラスに追加する独自のプロパティを定義する場合は、クラス作成ウィザードをキャンセルし、先に説明した手順でカスタムプロパティを事前に定義しておきます。

補助クラスの定義と使用

補助クラスとは、オブジェクトのクラス全体ではなく特定の eDirectory オブジェクトインスタンスに追加されるプロパティ (属性) のセットのことです。たとえば、電子メールアプリケーションの場合、eDirectory ツリーのスキーマを拡張して電子メールプロパティという補助クラスを含むことにより、個々のオブジェクトを必要に応じてそのプロパティで拡張できます。スキーママネージャを使用すると、独自の補助クラスを定義することができます。補助クラスを定義した後で、ConsoleOne メインウィンドウを使用し、その補助クラスに定義されているプロパティに基づいて個々のオブジェクトを拡張できます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 78 ページの「補助クラスを定義する」
- ◆ 79 ページの「補助クラスのプロパティでオブジェクトを拡張する」
- ◆ 80 ページの「補助クラスのプロパティで複数のオブジェクトを同時に拡張する」
- ◆ 81 ページの「オブジェクトの補助プロパティを変更する」
- ◆ 82 ページの「オブジェクトから補助プロパティを削除する」
- ◆ 82 ページの「複数のオブジェクトから補助プロパティを同時に削除する」

補助クラスを定義する

- 1 スキーマを拡張する eDirectory ツリー内の任意の場所をクリックします。
- 2 [ツール] > [スキーママネージャ] の順にクリックします。
- 3 [クラス] タブの [作成] をクリックします。
- 4 ウィザードの指示に従って、補助クラスを定義します。

クラスフラグの設定では、[補助クラス] を選択してください。補助クラスに追加する独自のプロパティを定義する場合は、クラス作成ウィザードをキャンセルし、先に独自のプロパティを定義します。詳細については、76 ページの「独自のオブジェクトクラスとプロパティの定義」を参照してください。

補助クラスのプロパティでオブジェクトを拡張する

- 1 ConsoleOne のメインウィンドウで目的のオブジェクトを右クリックし、[このオブジェクトの拡張] をクリックします。
- 2 使用する補助クラスが [現在の補助クラスの拡張] の下にすでに表示されているかどうかに応じて、適切な操作を実行します。

補助クラスがリスト 操作 に表示されている

はい	この手順を終了します。 その代わりに、81 ページの「オブジェクトの補助プロパティを変更する」を参照してください。
いいえ	[拡張の追加] をクリックし、補助クラスを選択して、[OK] をクリックします。

- 3 汎用エディタが使用されるというメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- 4 表示された画面で、必要なプロパティの値を設定します。
使用する画面に応じて、次の点に注意してください。

画面	注意点
[拡張] タブ ([プロパティ] ダイアログボッ クス)	<ul style="list-style-type: none">◆ 補助クラスの必須プロパティおよびオプションプロパティの両方がリストに表示されます。◆ 特定のプロパティの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
[新規作成] ダイ アログボックス	<ul style="list-style-type: none">◆ 補助クラスの必須プロパティだけがリストに表示されます。◆ 正しく設定するためには、各プロパティのシンタックスについて理解している必要があります。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「レブリカ」を参照してください。◆ 必須のプロパティを設定した後で、オプションのプロパティを設定できます。詳細については、81 ページの「オブジェクトの補助プロパティを変更する」を参照してください。

- 5 [OK] をクリックします。

補助クラスのプロパティで複数のオブジェクトを同時に拡張する

- 1 ConsoleOne の右側の画面で、<Shift> または <Ctrl> を押しながら各オブジェクトをクリックして、選択します。

選択するオブジェクトは、同じタイプである必要はありません。

- 2 選択したオブジェクトを右クリックし、[複数オブジェクトの拡張] をクリックします。
- 3 使用する補助クラスが [現在の補助クラスの拡張] の下にすでに表示されているかどうかに応じて、適切な操作を実行します。

ヒント: 選択したすべてのオブジェクトに共通する拡張だけがリストに表示されます。各オブジェクトに固有の拡張は表示されません。

補助クラスがリスト 操作 に表示されている

はい	この手順を終了します。 その代わりに、 81 ページの「オブジェクトの補助プロパティを変更する」 を参照してください。各オブジェクトは、1 度に 1 つしか変更できません。
いいえ	[拡張の追加] をクリックし、補助クラスを選択して、[OK] をクリックします。

- 4 汎用エディタが使用されるというメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
- 5 表示された画面で、必要なプロパティの値を設定します。

重要: 設定する各プロパティ値は、選択したオブジェクトのそれぞれに適用されます。目的のオブジェクトにすでに同じプロパティが存在し、そのプロパティが単一の値だけを取る場合は、既存の値が新しい値に置き換わります。目的のオブジェクトにすでに同じプロパティが存在し、そのプロパティが複数の値を取る場合は、既存の値に新しい値が追加されます。

使用する画面に応じて、次の点に注意してください。

画面	注意点
[拡張] タブ	<ul style="list-style-type: none">◆ 補助クラスの必須プロパティおよびオプションプロパティの両方がリストに表示されます。◆ 特定のプロパティの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

画面	注意点
[新規作成] ダイアログボックス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 補助クラスの必須プロパティだけがリストに表示されます。 ◆ 正しく設定するためには、各プロパティのシンタックスについて理解している必要があります。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「スキーマ」を参照してください。 ◆ 必須プロパティを設定した後で、次のセクションの説明に従ってオプションプロパティを設定することができます。各オブジェクトは、1度に1つしか変更できません。

6 [OK] をクリックします。

オブジェクトの補助プロパティを変更する

- 1 ConsoleOne のメインウィンドウでオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [拡張] タブで、補助クラスを基にした名前が付いているプロパティページを選択します。補助クラスがリストに表示されていない場合、あるいは [拡張] タブがない場合は、[その他] 一般ページを使用してください。
- 3 表示された画面で、必要なプロパティの値を設定します。使用する画面に応じて、次の点に注意してください。

画面	注意点
[拡張] タブ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 補助クラスの必須プロパティおよびオプションプロパティの両方がリストに表示されます。 ◆ 特定のプロパティの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
[その他] タブ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 補助クラスの設定済みプロパティだけがリストに表示されます。[追加] をクリックし、追加のプロパティを設定します。 ◆ 正しく設定するためには、各プロパティのシンタックスについて理解している必要があります。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「スキーマ」を参照してください。

4 [OK] をクリックします。

オブジェクトから補助プロパティを削除する

- 1 ConsoleOne のメインウィンドウで目的のオブジェクトを右クリックし、[このオブジェクトの拡張] をクリックします。
- 2 [現在の補助クラスの拡張] のリストから、削除するプロパティが定義されている補助クラスを選択します。
- 3 [拡張の削除] > [はい] の順にクリックします。

これにより、オブジェクトに最初から定義されていたプロパティを除き、補助クラスによって追加されたすべてのプロパティが削除されます。

複数のオブジェクトから補助プロパティを同時に削除する

- 1 ConsoleOne の右側の画面で、<Shift> または <Ctrl> を押しながら各オブジェクトをクリックして、選択します。

選択するオブジェクトは、同じタイプである必要はありません。

- 2 選択したオブジェクトを右クリックし、[複数オブジェクトの拡張] をクリックします。

- 3 プロパティを削除する補助クラスが [現在の補助クラスの拡張] の下に表示されているかどうかに応じて、適切な操作を実行します。

ヒント: 選択したすべてのオブジェクトに共通する拡張だけがリストに表示されます。各オブジェクトに固有の拡張は表示されません。

補助クラスがリスト 操作 に表示されている

はい 補助クラスを選択し、[拡張の削除] > [はい] の順にクリックします。

これにより、オブジェクトに最初から定義されていたプロパティを除き、補助クラスによって追加されたすべてのプロパティが削除されます。

いいえ ダイアログボックスを閉じます。

補助クラスは、各オブジェクトから 1 度に 1 つずつしか削除できません。82 ページの「[オブジェクトから補助プロパティを削除する](#)」を参照してください。

未使用のクラスとプロパティの削除

eDirectory ツリーのベーススキーマに定義されていない未使用のクラスとプロパティ (属性) を削除できます。ユーザ自身が定義し、未使用であることが確実なクラスだけ削除することをお勧めします。ConsoleOne では、ローカルにレプリカ作成されたパーティションで現在使用されているクラスだけは削除できません。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ [83 ページの「スキーマからプロパティを削除する」](#)
- ◆ [83 ページの「スキーマからクラスを削除する」](#)

スキーマからプロパティを削除する

- 1 スキーマを変更する eDirectory ツリー内の任意の場所をクリックします。
- 2 [ツール] > [スキーママネージャ] の順にクリックします。
- 3 [属性] タブで、目的のプロパティを選択し、[削除] > [はい] の順にクリックします。

スキーマからクラスを削除する

- 1 スキーマを変更する eDirectory ツリー内の任意の場所をクリックします。
- 2 [ツール] > [スキーママネージャ] の順にクリックします。
- 3 [クラス] タブで、目的のクラスを選択し、[削除] > [はい] の順にクリックします。

7

Novell eDirectory のパーティション化とレプリカ作成

パーティションは、Novell® eDirectory™ ツリーを分割したもので、独立した単位として複数のサーバに格納および複製できます。ツリーが大規模な場合や、複数の WAN リンクにまたがるようになった場合は、ツリーを分割および複製して、ネットワークパフォーマンスと耐障害性を向上させることができます。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「レプリカ」および「パーティション」を参照してください。


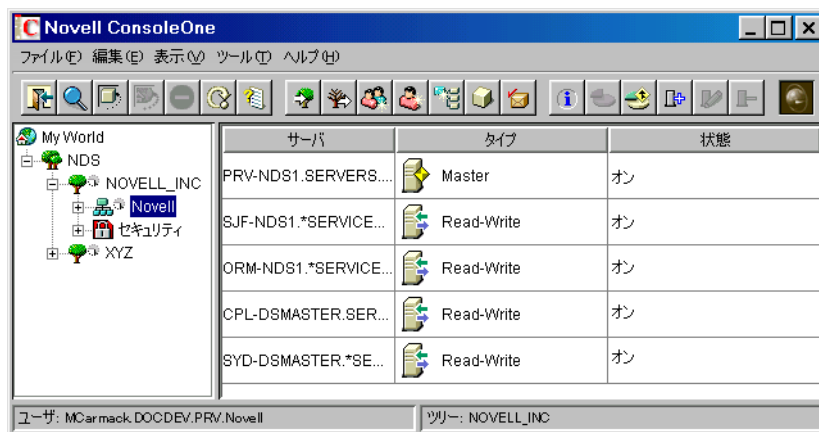
分割と複製の操作を実行するには、分割と複製を行う eDirectory ツリーの部分に対するスーパーバイザ権が必要です。ツリーでは、横に  アイコンのあるコンテナが、パーティション分割点となります (これらの各コンテナは、パーティションのルートに相当します)。このような分割点では、右側の画面に特別なビュー (次の図を参照) を開いて、パーティションのレプリカを表示および設定できます。ツリーのサーバオブジェクトから同様のビューにアクセスすることもできます。

図 3 パーティションとレプリカビュー



この章では、次の項目について説明します。

- ◆ 86 ページの「パーティションの管理」
- ◆ 92 ページの「レプリカの管理」
- ◆ 95 ページの「レプリカステータスについて」

パーティションの管理

デフォルトでは、小規模な eDirectory ツリーは単一のパーティションとして格納され、そのパーティションがツリー内にある最初の 3 つのサーバに複製されます。以降の手順では、パーティション操作の実行方法について説明します。ツリーのパーティション分割の概念とガイドラインについては、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「ツリーのパーティション化のガイドライン」および「パーティションおよびレプリカの管理」を参照してください。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 86 ページの「パーティションに関する情報を表示する」
- ◆ 87 ページの「パーティションを分割する (チャイルドパーティションを作成する)」
- ◆ 87 ページの「チャイルドパーティションをペアレントパーティションとマージする」
- ◆ 88 ページの「パーティションを移動する」
- ◆ 88 ページの「パーティションの関連性をチェックする」

パーティションに関する情報を表示する

- 1 左側の画面で、パーティションのルートコンテナ (横に並ぶアイコンのあるコンテナ) を右クリックし、[ビュー] > [パーティションとレプリカビュー] の順にクリックします。

右側の画面には、パーティションのレプリカが作成されているサーバのリストが表示されます。各レプリカのタイプとステータスも表示されます。レプリカタイプについては、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「レプリカ」を参照してください。レプリカステータスについては、95 ページの「レプリカステータスについて」を参照してください。

- 2 パーティションの詳しい情報 (最後にレプリカが同期した時刻など) を表示するには、次の手順を実行します。
 - 2a パーティションルートが左側の画面で選択された状態であることを確認します。
 - 2b ツールバーの [情報] ボタンをクリックします。

[パーティション情報] ダイアログボックスが表示されます。個々の情報フィールドの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。


パーティションを分割する (チャイルドパーティションを作成する)

- 1 パーティション作成の手順全体について理解している必要があります。

『Novell eDirectory 管理ガイド』の「[パーティションの作成](#)」を参照してください。
- 2 新規のパーティション (チャイルドパーティション) のルートになるコンテナを右クリックし、[ビュー] > [パーティションとレプリカビュー] の順にクリックします。

右側の画面にレプリカのリストが空の状態が表示されます。このリストが空でない場合は、選択したコンテナがすでにパーティションルートになっているので、別のコンテナを選択します。
- 3 ツールバーの [パーティションの作成] ボタン > [OK] の順にクリックします。


チャイルドパーティションをペアレントパーティションとマージする

- 1 目的のチャイルドパーティションのルートコンテナ (横に  アイコンのあるコンテナ) を右クリックし、[ビュー] > [パーティションとレプリカビュー] の順にクリックします。

右側の画面には、パーティションのレプリカが作成されているサーバのリストが表示されます。各レプリカのタイプとステータスも表示されます。レプリカタイプについては、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「[レプリカ](#)」を参照してください。レプリカステータスについては、[95 ページの「レプリカステータスについて」](#)を参照してください。
- 2 チャイルドパーティションをマージする準備ができていることを確認します。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「[パーティションのマージ](#)」を参照してください。

- 3 チャイルドパーティションのルートコンテナが左側の画面で選択された状態であることを確認します。
- 4 ツールバーの [パーティションのマージ] ボタン > [OK] の順にクリックします。

パーティションを移動する

- 1 パーティションを移動する準備ができていることを確認します。詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「[パーティションの移動](#)」を参照してください。
- 2 目的のパーティションのルートコンテナ(横に  アイコンのあるコンテナ) を選択します。
- 3 [ファイル] > [移動] の順にクリックします。
- 4 [移動先] フィールドの横にある [参照] ボタンをクリックし、パーティションの移動先となるコンテナを選択して、[OK] をクリックします。
- 5 (推奨) [移動する全オブジェクトに1つの別名を作成] チェックボックスをオンにします。
- 6 [OK] をクリックします。

パーティションの関連性をチェックする

パーティションの関連性によって、同期エラーが発生しているパーティションのレプリカを識別できます。選択したパーティションのレプリカを保持するサーバをすべて調べる、またはパーティションのレプリカリスト (またはレプリカリング) の情報が各サーバで一致していることを確認することによって、パーティションの関連性をチェックします。この操作は、「レプリカリングの移動」ともいいます。

選択したパーティションのレプリカを持つ各サーバに、同一のレプリカリストがなかったり、何らかの理由で、レプリカが eDirectory ツリーと同期できなかった場合は、[パーティションの関連性テーブル] に、1つ以上のエラーが表示されます。エラーが発生した場合、レプリカのアイコンに感嘆符が表示されます。

[パーティションの関連性テーブル] には、各サーバ (行) のレプリカリスト (列) が表示されます。リストには選択したパーティションのレプリカが保持されています。パーティショングリッドの内容を理解するには、リストを横方向に参照し、1行を1つのサーバとして解釈します。各行が、それぞれのサーバのレプリカリストに相当します。

図 4 パーティションの関連性テーブル

ALS1_TREE	ALS.n	ALSNT.n	ALSNT2000.n
ALS.n	Master	Read-Write	Read-Write
ALSNT.n	Master	Read-Write	Read-Write
ALSNT2000.n	Master	Read-Write	Read-Write

テーブルには、読み込み不能レプリカを表すアイコンも表示されます。このアイコンは、必ずしもサーバが接続できなくなったことを示しているわけではありません。ただクライアントがサーバに接続して情報を取得できなくなっていることが考えられます。

ConsoleOne では、[パーティションとレプリカビュー] からパーティションの関連性をチェックできます。

- 1 [表示] > [パーティションとレプリカビュー] の順に選択します。
- 2 同期ステータスを表示するパーティションを選択します。
- 3 [パーティションの関連性] をクリックします

パーティションの関連性テーブルを使用する

パーティションの関連性テーブルを使用すると、次の操作を実行できます。

- ◆ 90 ページの「レプリカ情報を表示する」
- ◆ 90 ページの「サーバ情報を表示する」
- ◆ 90 ページの「レプリカ情報を同期する」
- ◆ 91 ページの「更新情報を受信する」
- ◆ 91 ページの「更新情報を送信する」

レプリカ情報を表示する

パーティションの関連性テーブルから、タイプ、現在のステータス、同期エラーなど、レプリカについての情報を表示できます。

- 1 [パーティションの関連性テーブル] で列を選択します。
- 2 [表示] > [情報] > [レプリカ] の順にクリックします。
- 3 表示するレプリカ (列) を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

テーブルでレプリカアイコンをダブルクリックしても、レプリカ情報を表示できます。

サーバ情報を表示する

[パーティションの関連性テーブル] から、サーバとサーバが保持するレプリカについての情報を表示できます。

- 1 [パーティションの関連性テーブル] で列を選択します。
- 2 [表示] > [情報] > [サーバ] の順にクリックします。

テーブルでサーバの列をダブルクリックしても、サーバ情報を表示できます。

レプリカ情報を同期する

選択したパーティションのレプリカを保持するすべてのサーバのレプリカ情報を、他のサーバ上のレプリカ情報と同期できます。

- 1 [修復] > [即時同期] の順にクリックします。

更新情報を受信する

この操作によって、選択したサーバ上のレプリカは、パーティションのマスタレプリカからすべての eDirectory オブジェクトを強制的に受信します。この操作では、選択したサーバー上のレプリカは新しいレプリカとしてマークされます。

レプリカステータスは、ツリーのビューまたはパーティションとサーバのリストから、サーバのレプリカリストで確認できます。レプリカの現在のデータは、マスタレプリカから受信したデータで上書きされます。

eDirectory ではレプリカ間のディレクトリデータは自動的に同期されますが (各レプリカには更新された最新のディレクトリオブジェクトが送信されます)、マスタ以外のレプリカが同期されなかった場合には、更新情報の受信操作によって、レプリカのディレクトリオブジェクトを手動で同期できます。

レプリカが破損した場合や、長時間にわたって更新されたデータを受信していない場合に、更新情報の受信を実行してください。

[パーティションの関連性テーブル] から、マスタレプリカのデータと同期していないレプリカを識別できます。同期していないレプリカは、レプリカのアイコンに感嘆符 (!) が付いた状態でパーティショングリッドに表示されます。

マスタレプリカからは、このオプションを選択できません。マスタレプリカは最新の状態であり、パーティションの正確なコピーとして扱われるためです。これに該当しない場合には、レプリカタイプの変更操作によって、他のレプリカのいずれかをマスタとして割り当てます。この操作を行うと、現在のマスタレプリカは、自動的に読み書き可能なレプリカに変更されます。

レプリカタイプの変更操作では、ネットワークトラフィックが大幅に増加する場合がありますため、ネットワークトラフィックが少ないときに実行することをお勧めします。

1 [修復] > [更新情報の受信] の順にクリックします。

更新情報を送信する

レプリカから更新情報を送信する場合、送信を行うレプリカの eDirectory オブジェクトは、このレプリカが格納されているサーバから、パーティションの他のレプリカすべて (マスタレプリカを含む) にブロードキャストされます。

パーティションの他のレプリカは、送信された新しいオブジェクトとすでに保持しているオブジェクトを結合します。他のレプリカに、送信されたデータ以外のデータがある場合、データは保持されます。

eDirectory ではレプリカ間のディレクトリデータは自動的に同期されますが (各レプリカには更新された最新のディレクトリオブジェクトが送信されます)、レプリカが同期されなかった場合には、更新情報の送信操作によって、レプリカのディレクトリオブジェクトを手動で同期できます。

1 [修復] > [更新情報の送信] の順にクリックします。


レプリカの管理

新規のパーティションを作成すると、デフォルトでは eDirectory ツリー内の 1 つまたは複数のサーバにそのパーティションのレプリカが作成されます。以降の手順では、ツリーのパーティションのレプリカを設定する方法について説明します。レプリカのご概念とガイドラインについては、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「[ツリーの複製のガイドライン](#)」および「[パーティションおよびレプリカの管理](#)」を参照してください。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ [92 ページの「レプリカ情報を表示する」](#)
- ◆ [93 ページの「レプリカを追加する」](#)
- ◆ [93 ページの「レプリカを削除する」](#)
- ◆ [94 ページの「レプリカを変更する」](#)
- ◆ [94 ページの「選択したデータだけを複製する」](#)

レプリカ情報を表示する

1 左側の画面で、サーバまたはパーティションルート (横に  アイコンのあるコンテナ) を右クリックし、[ビュー] > [パーティションとレプリカビュー] の順にクリックします。

サーバを選択すると、複製元のパーティションとは無関係に、すべてのレプリカが表示されます。パーティションルートを選択すると、格納先のサーバとは無関係に、すべてのパーティションのレプリカが表示されます。

右側の画面には、選択したレプリカのリストが表示されます。各レプリカのタイプとステータスも表示されます。レプリカタイプについては、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「[レプリカ](#)」を参照してください。レプリカステータスについては、[95 ページの「レプリカステータスについて」](#)を参照してください。


2 特定のレプリカの詳しい情報 (最後にレプリカが同期した時刻やエラーの有無など) を表示するには、次の手順を実行します。

2a 右側の画面で、目的のレプリカを選択します。

2b ツールバーの [情報] ボタンをクリックします。

[レプリカ情報] ダイアログボックスが表示されます。個々の情報フィールドの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。同期エラーが発生している場合は、エラー番号の横にある疑問符をクリックして詳細を確認します。

レプリカを追加する

1 左側の画面で、複製するパーティションのルートコンテナ (横に  アイコンのあるコンテナ) を右クリックし、[ビュー] > [パーティションとレプリカビュー] の順にクリックします。

右側の画面には、そのパーティションのレプリカがすでに作成されているサーバのリストが表示されます。

2 ツールバーの [レプリカの追加] ボタンをクリックします。


3 [サーバ名] フィールドの横にある [参照] ボタンをクリックし、新規のレプリカを作成するサーバを選択して、[OK] をクリックします。

4 レプリカのタイプを選択します。

詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

5 [OK] をクリックします。


レプリカを削除する

1 左側の画面で、レプリカ (パーティションのコピー) を保持しているサーバか、パーティションのルートコンテナ (横に  アイコンのあるコンテナ) を右クリックし、[ビュー] > [パーティションとレプリカビュー] の順にクリックします。

右側の画面には、選択したサーバ上のレプリカのリストまたは選択したパーティションのレプリカのリストが表示されます。各レプリカのタイプとステータスも表示されます。レプリカタイプについては、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「レプリカ」を参照してください。レプリカステータスについては、95 ページの「レプリカステータスについて」を参照してください。

- 2 レプリカの削除が及ぼす影響について理解している必要があります。
『Novell eDirectory 管理ガイド』の「**レプリカの追加、削除、タイプの変更**」を参照してください。
- 3 右側の画面で、目的のレプリカを選択します。
- 4 ツールバーの [レプリカの削除] > [はい] の順にクリックします。

レプリカを変更する

- 1 左側の画面で、レプリカ (パーティションのコピー) を保持しているサーバか、パーティションのルートコンテナ (横に  アイコンのあるコンテナ) を右クリックし、[ビュー] > [パーティションとレプリカビュー] の順にクリックします。

右側の画面には、選択したサーバ上のレプリカのリストまたは選択したパーティションのレプリカのリストが表示されます。各レプリカのタイプとステータスも表示されます。レプリカタイプについては、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「**レプリカ**」を参照してください。レプリカステータスについては、**95 ページの「レプリカステータスについて**」を参照してください。
- 2 レプリカの変更が及ぼす影響について理解している必要があります。
『Novell eDirectory 管理ガイド』の「**レプリカの追加、削除、タイプの変更**」を参照してください。
- 3 ツールバーの [レプリカタイプの変更] ボタンをクリックします。
- 4 レプリカを必要に応じて変更します。

詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
 - 4a レプリカタイプを変更するには、そのタイプを選択します。
 - 4b フィルタ済みレプリカタイプについては、次の **94 ページの「選択したデータだけを複製する**」を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

選択したデータだけを複製する

すでに説明した手順でレプリカを追加または変更するとき、フィルタ済みレプリカタイプを選択し、[フィルタの作成/編集] をクリックします。レプリカに含めるオブジェクトとプロパティだけを選択します。

この処理を正しく実行するには、NDS eDirectory 8.5 以降でツリーが動作している必要があります。

レプリカステータスについて

eDirectory レプリカは、実行中のパーティション操作またはレプリカの操作に応じて、ステータスが変化します。次の表は、ConsoleOne で発生するレプリカステータスについてまとめたものです。

状態	レプリカのステータス
オン	現在実行中のパーティション操作またはレプリカの操作はありません
新規	新規のレプリカとしてサーバに追加中です
停止	サーバから削除中です
停止	サーバからの削除が完了しました
マスタ開始	マスタレプリカに変更中です
マスタ完了	マスタレプリカへの変更が完了しました
タイプの変更	レプリカタイプを変更中です
ロック	パーティションの移動または修復の操作に備えてロック状態になっています
トランジション 移動中	パーティションの移動操作が始まりました
移動	パーティションの移動操作を実行中です
トランジション 分割	パーティションの分割操作 (チャイルドパーティションの作成) が始まりました
分割	パーティションの分割操作 (チャイルドパーティションの作成) を実行中です
結合	ペアレントパーティションにマージ中です
トランジション オン	ステータスがオンに戻るところです
不明	ConsoleOne が認識しないステータスになっています

8

NetWare サーバリソースの管理

NetWare[®] サーバを個別に管理したり、従来の NetWare ボリュームと NSS ボリュームの両方のファイルシステムリソースを管理できます。たとえば、基本的なサーバ情報の表示と変更、NetWare Management Portal の起動、サーバオペレータの割り当て、ファイルとフォルダのコピーと移動、削除したファイルのサルベージとパージなどを実行できます。ボリュームスペース割り当ての制御（従来のボリュームに対してのみ）、ファイルの所有者と属性の割り当て、トラスティ（権利）の割り当て、ボリューム使用統計情報の表示もできます。NetWare ファイルシステムの背景情報については、『NetWare 5 Documentation』の「Traditional File Services Administration Guide (http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/trad_enu/data/h158rfoc.html)」および「Novell Storage Services Administration Guide (http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/nss_enu/data/hn0r5fzo.html)」を参照してください。

ConsoleOne[™] では、NetWare のサーバ、ボリューム、フォルダ、およびファイルを Novell[®] eDirectory[™] ツリーの他のオブジェクトと同様に参照できます。ボリュームとフォルダは、展開と縮小ができるコンテナオブジェクトです。サーバとファイルは、プロパティを操作および設定できるリーフオブジェクトです。

この章では、次の項目について説明します。

- ◆ 98 ページの「サーバとファイルシステムの情報の表示と変更」
- ◆ 101 ページの「NetWare ボリュームのファイルとフォルダの管理」
- ◆ 103 ページの「NetWare ボリュームで削除したファイルのサルベージとパージ」
- ◆ 104 ページの「ボリュームスペースの割り当ての制御」
- ◆ 105 ページの「ファイル管理を容易にする eDirectory オブジェクトの作成」

サーバとファイルシステムの情報の表示と変更

NetWare のサーバ、ボリューム、ファイル、フォルダの情報を表示および変更できます。ボリューム、ファイル、およびフォルダの情報としては、属性、所有者、最終変更時刻、最終バックアップ時刻などがあります。eDirectory ツリーのサーバオブジェクトから NetWare Management Portal を起動することもできます。

ヒント: 属性は、圧縮、バックアップ、移行などの処理でファイルとフォルダをどのように扱うかを制御するものです。特定のファイルおよびフォルダへのアクセスを制御する場合にも属性を使用します。これにより、個々のトラスティ(権利)割り当てを上書きできます。

ボリュームに関しては、現在の使用統計情報と、ファイルシステム機能が有効か無効かの情報を表示できます。サーバに関しては、現在のステータス、NetWare のバージョン番号、およびネットワークアドレスを表示できます。コンソールオペレータを割り当てたり、サーバでサポートされているリソース、サービス、およびユーザの情報を記録することもできます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 98 ページの「サーバオブジェクトから NetWare Management Portal を起動する」
- ◆ 99 ページの「NetWare サーバに関する情報を表示または変更する」
- ◆ 99 ページの「ボリュームに関する情報を表示または変更する」
- ◆ 100 ページの「ボリュームまたはフォルダの内容の詳細を表示する」
- ◆ 100 ページの「ファイルやフォルダに関する情報を表示または変更する」
- ◆ 100 ページの「複数のファイル、フォルダ、またはボリュームに関する情報を同時に変更する」

サーバオブジェクトから NetWare Management Portal を起動する

この処理を正しく行うには、目的の NetWare サーバで NetWare Management Portal(PORTAL.NLM) を実行している必要があります。NetWare 5.1 であれば、NetWare Management Portal はデフォルトでロードされます。Web ブラウザが ConsoleOne ワークステーションにインストールされている必要もあります。

- 1 eDirectory ツリーで、目的の NCP サーバオブジェクトを参照します。
- 2 NCP サーバオブジェクトを右クリックし、[ポータル起動] をクリックします。

エラーメッセージが表示された場合は、目的のサーバで PORTAL.NLM が実行されていない可能性があります。実行している場合は、[NetWare Management Portal] ページが Web ブラウザに表示されます。NetWare Management Portal の使用方法については、NetWare 5.1 のマニュアルの「NetWare Management Portal Utility Guide (http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/port_enu/data/a310k9x.html)」を参照してください。

NetWare サーバに関する情報を表示または変更する

- 1 目的の NCP サーバオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 次のプロパティページを使用して、目的の情報を表示または変更します。

プロパティページの詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

ページ	用途
[一般] > [識別]	サーバのステータス、NetWare のバージョン番号、またはネットワークアドレスを表示します
[一般] > [エラーログ]	サーバのエラーログファイルを表示またはクリアします
[オペレータ]	コンソールオペレータの特権を持つユーザのリストを表示または変更します
[リソース]、 [サポートするサービス]、 [ユーザ]	サーバでサポートされているリソース、サービス、およびユーザを記録します (この情報は参照用であり、システムで使用されることはありません)

- 3 [OK] をクリックします。

ボリュームに関する情報を表示または変更する

- 1 目的のボリュームを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 ボリュームの所有者、または最近発生したボリュームイベントに関する情報を表示または変更するには、[日付と時刻] ページを使用します。

詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

- 3 ボリュームの使用統計情報と、ファイルシステム機能が有効か無効かの情報を表示するには、[統計情報] ページを使用します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 4 [OK] をクリックします。

ボリュームまたはフォルダの内容の詳細を表示する

- 1 左側の画面で、目的のボリュームまたはフォルダを右クリックし、[ビュー] > [詳細ビュー] の順にクリックします。
右側の画面には、ファイルとフォルダのリストが最終変更日と現在の属性設定と共に表示されます。列のサイズを変更するには、その境界をドラッグします。
- 2 [属性] 列に表示されている情報の意味については、NetWare 5.1 のマニュアルの「[Setting Directory or File Attributes \(http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/trad_enu/data/h8gdk9xq.html\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/trad_enu/data/h8gdk9xq.html)」を参照してください。

ファイルやフォルダに関する情報を表示または変更する

- 1 目的のファイル、フォルダ、またはボリュームを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
ボリュームを選択すると、ファイルシステムのルートフォルダに関する情報を表示できます。
- 2 [属性] ページで、目的の属性を表示または設定します。
詳細については、NetWare 5.1 のマニュアルの「[Setting Directory or File Attributes \(http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/trad_enu/data/h8gdk9xq.html\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/trad_enu/data/h8gdk9xq.html)」を参照してください。
- 3 [情報] ページで、目的の情報を表示または変更します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 4 [OK] をクリックします。

複数のファイル、フォルダ、またはボリュームに関する情報を同時に変更する

- 1 右側の画面で、<Ctrl> または <Shift> を押しながら目的のファイル、フォルダ、またはボリュームをクリックして、選択します。
- 2 [ファイル] > [複数のオブジェクトのプロパティ] の順にクリックします。

このオプションが使用不能になっている場合は、右画面の選択部分を右クリックし、[複数のオブジェクトのプロパティ] をクリックします。

重要: 複数のオブジェクトを編集するときには、プロパティページが通常と違った動作をします。詳細については、**39 ページの「オブジェクトプロパティの編集」**を参照してください。

- 3** [変更するオブジェクト] ページで、変更するオブジェクトだけがリストに表示されていることを確認します。

必要に応じてオブジェクトを追加または削除します。

- 4** [属性] ページで、目的の属性を設定します。

詳細については、**NetWare 5.1 のマニュアルの「Setting Directory or File Attributes (http://www.novell.com/documentation/japanese/nw51/trad_enu/data/h8gdk9xq.html)**」を参照してください。

- 5** (ボリュームのみ) [日付と時刻] ページで、目的の情報を変更します。

詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

- 6** 必要な情報の変更は、それぞれのページで行います。

詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。

- 7** [OK] をクリックします。

NetWare ボリュームのファイルとフォルダの管理

NetWare ボリュームのファイルシステム全体に目を通したら、次の項目のファイル管理作業を実行できます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 102 ページの「ファイルやフォルダをコピーまたは移動する」
- ◆ 102 ページの「ファイルまたはフォルダを作成する」
- ◆ 102 ページの「ファイルまたはフォルダをリネームする」
- ◆ 102 ページの「ファイルとフォルダを削除する」

ファイルやフォルダをコピーまたは移動する

- 1 右側の画面で、<Ctrl> または <Shift> を押しながら目的のファイルまたはフォルダをクリックして、選択します。
- 2 コピーする場合は <Ctrl>+<C> を、移動する場合は <Ctrl>+<X> を押します。
- 3 選択したファイルやフォルダのコピー先や移動先となるフォルダまたはボリュームを選択します。
- 4 <Ctrl>+<V> を押して、選択したファイルやフォルダを貼り付けます。
- 5 確認を求めるダイアログボックスで、コピーまたは移動の操作をするときに操作対象の各項目に対するユーザのトラスティ (権利) 割り当てを保持するかどうかを指定します。

ファイルとフォルダの他の属性 (Mac OS* ファイルのリソースフォークなど) は、自動的に保持されます。

ファイルまたはフォルダを作成する

- 1 新規のファイルやフォルダを作成するフォルダまたはボリュームを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 2 [クラス] で、ファイルまたはディレクトリを選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [名前] に新規のファイルまたはフォルダの名前を入力し、[OK] をクリックします。

この手順でファイルを作成すると、ファイルの内容は空になります。

ファイルまたはフォルダをリネームする

- 1 目的のファイルまたはフォルダを右クリックし、[リネーム] をクリックします。
- 2 [新しい名前] にファイルまたはフォルダの新しい名前を入力し、[OK] をクリックします。

ファイルとフォルダを削除する

- 1 右側の画面で、<Ctrl> または <Shift> を押しながら目的のファイルまたはフォルダをクリックして、選択します。
- 2 <Delete> を押します。
- 3 確認ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。

NetWare ボリュームで削除したファイルのサルベージとパージ

NetWare ボリュームから削除したファイルとフォルダは、まだパージしていなければ、サルベージ(復元)できます。デフォルトでは、定期的に NetWare ボリュームのパージが実行されます。しかし、必要に応じて特定のファイルとフォルダを直ちにパージして、スペースを復元することもできます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 103 ページの「削除したファイルとフォルダをサルベージする」
- ◆ 103 ページの「削除したファイルとフォルダをパージする」

削除したファイルとフォルダをサルベージする

- 1 左側の画面で、目的のファイルとフォルダを削除したボリュームまたはフォルダを右クリックし、[ビュー] > [削除されたファイルビュー] の順にクリックします。

削除したファイルとフォルダが右側の画面に表示されます。右側の画面の列のサイズを変更するには、その境界をドラッグします。

- 2 <Ctrl> または <Shift> を押しながら、サルベージするファイルまたはフォルダをクリックします。
- 3 選択部分を右クリックし、[サルベージ] をクリックします。

フォルダをサルベージしただけでは、フォルダの内容はサルベージされません。まずフォルダをサルベージし、次にその内容をサルベージする必要があります。

削除したファイルとフォルダをパージする

- 1 左側の画面で、目的のファイルとフォルダを削除したボリュームまたはフォルダを右クリックし、[ビュー] > [削除されたファイルビュー] の順にクリックします。

削除したファイルとフォルダが右側の画面に表示されます。右側の画面の列のサイズを変更するには、その境界をドラッグします。

- 2 <Ctrl> または <Shift> を押しながら、パージするファイルまたはフォルダをクリックします。

警告: パージしたファイルとフォルダを復元することはできません。一度 [パージ] をクリックすると、操作をキャンセルすることはできません。

- 3 選択部分を右クリックし、[パージ] をクリックします。

ボリュームスペースの割り当ての制御

ユーザが使用できるボリュームスペースの量を個別に制限できます。フォルダの容量を個別に制限することもできます。

現時点では、これらの作業が行えるのは従来の NetWare ボリュームだけです。NSS ボリュームに対しては行えません。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 104 ページの「ユーザのボリュームスペースを制限する」
- ◆ 104 ページの「フォルダの容量を制限する」
- ◆ 105 ページの「ユーザのボリュームスペース制限を解除する」
- ◆ 105 ページの「フォルダの容量制限を解除する」

ユーザのボリュームスペースを制限する

- 1 目的のボリュームを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[ユーザスペース制限] ページを選択します。
- 2 [ユーザ名] 列で、スペースを制限したいユーザがすでに表示されている場合は、そのユーザ > [変更] の順にクリックします。
表示されていない場合は、[追加] をクリックしてそのユーザを追加します。
- 3 表示されたダイアログボックスで、[ボリュームスペースの制限] を選択し、そのフィールドにスペースの制限値を入力して、[OK] をクリックします。
- 4 [プロパティ] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。

フォルダの容量を制限する

- 1 目的のフォルダを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [情報] ページで、[容量を制限する] を選択します。
- 3 [制限] に、容量の制限値をキロバイト単位で入力します。
この制限値は、近接する 64 キロバイトの倍数に丸められます。
- 4 [OK] をクリックします。

ユーザのボリュームスペース制限を解除する

- 1 目的のボリュームを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[ユーザスペース制限] ページを選択します。
- 2 [ユーザ名] 列で、そのユーザ > [削除] の順にクリックします。
- 3 [OK] をクリックします。

これでユーザ固有の制限がなくなり、そのボリューム上で使用できる容量まで利用できるようになります。

フォルダの容量制限を解除する

- 1 目的のフォルダを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [情報] ページで、[容量を制限する] の選択を解除します。
- 3 [OK] をクリックします。

ペアレントフォルダに容量の制限が課せられていれば、このフォルダにもその制限が適用されます。

ファイル管理を容易にする eDirectory オブジェクトの作成

サーバに NetWare 4.x、5.x、または 6 をインストールすると、サーバとそのボリュームを管理するためのオブジェクトが eDirectory ツリーに自動的に作成されます。このほかにも新たにサーバオブジェクトおよびボリュームオブジェクトを作成して、他の eDirectory ツリーにあるサーバまたは以前のバージョンの NetWare を実行しているサーバのリソースを管理できます。ディレクトリマップオブジェクトを作成して、NetWare ボリューム上にある、頻繁に使用されるフォルダへのアクセスを容易にすることもできます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 105 ページの「Netware サーバオブジェクトを作成する」
- ◆ 106 ページの「ボリュームオブジェクトを作成する」
- ◆ 107 ページの「ディレクトリマップオブジェクトを作成する」

Netware サーバオブジェクトを作成する

- 1 実際に NetWare サーバが実行中であり、ネットワーク上でアクセス可能になっていることを確認します。
- 2 サーバオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。

- 3 [クラス] で、NCP Server を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [名前] に、このオブジェクトが表す実際の NetWare サーバの名前を入力します。
例: SALES_SRV
- 5 このサーバオブジェクトの作成時にプロパティ値を新たに割り当てる場合は、[作成後に詳細を設定] を選択します。
たとえば、サーバオペレータとして 1 人または複数のユーザを割り当てることができます。
- 6 [OK] をクリックします。
ConsoleOne は、指定されたサーバをネットワーク上で探します。見つからない場合 (サーバ名を間違えて入力した場合など)、そのサーバオブジェクトは作成されません。

ボリュームオブジェクトを作成する

- 1 ボリュームのホストとなる NetWare サーバのサーバオブジェクトが eDirectory ツリーに含まれていることを確認します。
- 2 その NetWare サーバが実行中であることと、ボリュームがマウントされ、ネットワーク上でアクセス可能になっていることを確認します。
- 3 ボリュームオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 4 [クラス] で、ボリュームを選択し、[OK] をクリックします。
- 5 表示されたダイアログボックスで、ボリュームオブジェクトの名前を入力し、そのオブジェクトが表すホストサーバと物理ボリュームを選択します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 6 [OK] をクリックします。
ConsoleOne は、指定されたボリュームをネットワーク上で探します。見つからない場合、そのボリュームオブジェクトは作成されません。

ディレクトリマップオブジェクトを作成する

- 1 ディレクトリマップオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 2 [クラス] で、ディレクトリマップを選択し、[OK] をクリックします。
- 3 表示されたダイアログボックスで、ディレクトリマップオブジェクトの名前を入力し、そのオブジェクトが表すボリュームとパスを選択します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 4 [OK] をクリックします。

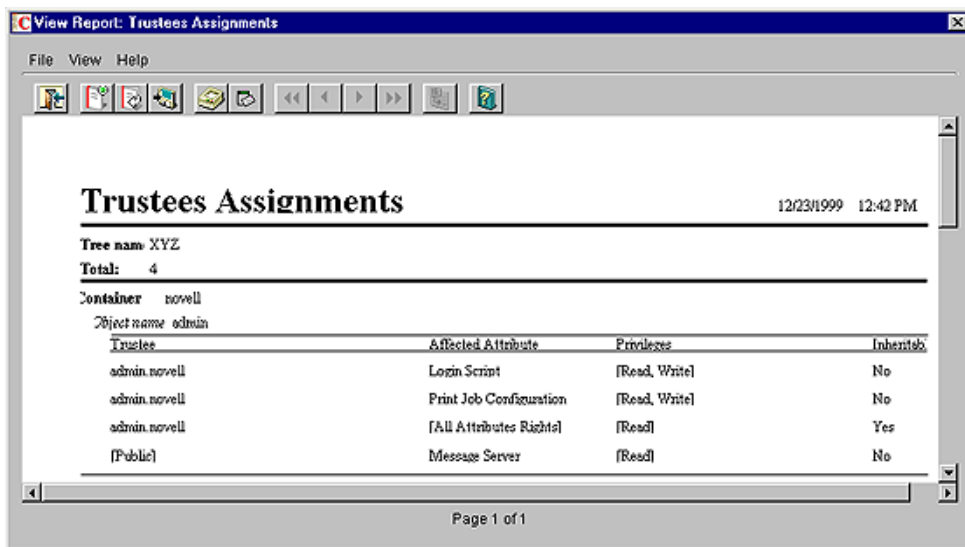
ConsoleOne は、指定されたパスが実際に存在するかどうかにかかわらず、そのディレクトリマップオブジェクトを作成します。作成されたディレクトリマップオブジェクトが実際に存在することと、ユーザがディレクトリマップを使用してドライブをマップできないことを確認します。

9

レポートの生成

このリリースの ConsoleOne™ には、定義済みのレポートフォームがいくつか用意されています。これらのフォームを使用すると、eDirectory™ ツリーのオブジェクトに関するレポートを生成できます。レポートの一例を次に示します。

図 5 トラストティ割り当てレポートダイアログボックス



定義済みの eDirectory レポートフォームは 3 つのレポートカタログオブジェクトにパッケージされており、これらのオブジェクトは eDirectory ツリーに追加できます。他の Novell® 製品には、これらのレポートカタログ以外にもツリーに追加できるレポートカタログを備えているものがあります。JReport* Designer(別売り)を ConsoleOne に追加すると、独自のレポートをゼロから設計することもできます。

注：現時点では、レポートを生成できるのは、113 ページの「レポート機能の設定」の説明どおりに構成されている Windows* コンピュータで ConsoleOne を実行しているときだけです。NetWare® サーバで ConsoleOne を実行しているときには、レポートを生成できません。

この章では、次の項目について説明します。

- ◆ 110 ページの「用意されているレポート」
- ◆ 113 ページの「レポート機能の設定」
- ◆ 116 ページの「レポートの生成、印刷、および保存」
- ◆ 119 ページの「独自のレポートの設計」

用意されているレポート

このセクションでは、このリリースの ConsoleOne に用意されている Novell 定義レポートフォームについて説明します。ConsoleOne に付属する代表的なレポートフォームだけを取り上げます。他の製品 (ZENworks™ など) に用意されているレポートフォームについては、その製品のマニュアルを参照してください。Novell 定義レポートカタログを使用してレポートを生成する前に、113 ページの「レポート機能の設定」の説明に従って、そのレポートカタログをセットアップしておく必要があります。

レポートフォームの中には、1 つまたは複数のサブレポートが含まれているものもあります。これらのサブレポートは、レポートの設計によって生成されるもので、無視できます。ConsoleOne のリストでは、サブレポートの名前はすべて小文字で表示されます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 110 ページの「eDirectory 汎用オブジェクトレポート」
- ◆ 111 ページの「eDirectory ユーザセキュリティレポート」
- ◆ 113 ページの「eDirectory ユーザおよびグループレポート」

eDirectory 汎用オブジェクトレポート

このレポートカタログに含まれているレポートフォームを使用すると、eDirectory ツリーの Web サーバ、プリントサーバ、およびプリンタに関するレポートを生成できます。次の表は、汎用オブジェクトレポートについてまとめたものです。

レポート	オブジェクトごとに提供される情報
NetWare ファイルサーバ	NetWare サーバ名、ステータス、ネットワークアドレス、オペレーティングシステムのバージョン、eDirectory のバージョン、オペレータのリスト。
プリントサーバ	プリントサーバ名、プリントサーバのサービスを受けているプリンタのリスト、各プリンタのステータス、プリントサーバで使用されているプリントキュー。
プリンタ	プリンタ名、プリンタにサービスを提供しているプリントサーバ、プリンタで使用しているプリントキューのリスト。

eDirectory ユーザセキュリティレポート

このレポートカタログには、eDirectory ツリー内のユーザの eDirectory ログインと権利のセキュリティに関するレポートを生成するためのレポートフォームが格納されています。次の表は、ユーザセキュリティレポートについてまとめたものです。

レポート	オブジェクトごとに提供される情報
無効なユーザアカウント	無効なユーザアカウントの名前、ユーザの他の名前 (非公式の名前)、ユーザアカウントのステータス。ステータスは、無効か期限切れ (有効期限) のどちらかになります。
不正侵入者検出によってロックされているユーザ	ユーザ名、ユーザアカウントが不正侵入者検出によってロックされているかどうか、ログインが試みられたネットワークアドレス、失敗したログイン試行回数、ユーザアカウントのロックが解除される日付と時刻 (現時点でまだロックされている場合)。
同等セキュリティ	ユーザ名、ユーザが明示的に同等セキュリティとなっているオブジェクトのリスト (暗黙的または自動的な同等セキュリティはリストに掲載されません)。

レポート	オブジェクトごとに提供される情報
テンプレートセキュリティ設定	<p>テンプレートオブジェクト名、テンプレートから新規作成されるユーザオブジェクトに適用されるセキュリティ設定。セキュリティ設定には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ログインパスワード要件 ◆ 最初はログインを無効にするかどうか ◆ ログインの有効期限 ◆ 同時ログインセッションの最大数 ◆ ユーザがログインできる時間の制限 ◆ グループメンバーシップ ◆ ユーザが明示的に同等セキュリティとなっているオブジェクト ◆ ユーザオブジェクトのトラスティと、そのトラスティに割り当てられた権利 ◆ ユーザ自身のユーザオブジェクトに対してユーザに割り当てられた権利 ◆ 他の eDirectory オブジェクトに対してユーザに割り当てられた権利 ◆ NetWare ボリュームのファイルとフォルダに対してユーザに割り当てられた権利
トラスティ割り当て	<p>トラスティ割り当てでアクセスを制御するリソース (eDirectory オブジェクト) の名前、トラスティ (リソースに対する権利を保持しているオブジェクト) およびそのトラスティに割り当てられた権利のリスト。</p>
ユーザパスワード要件	<p>ユーザ名、ユーザの他の名前 (非公式の名前)、ログインパスワードが必須かどうか、ユーザが自身のパスワードを変更できるかどうか、パスワードの最小の長さ、パスワードの最後の 8 文字を一意にする必要があるかどうか、同じパスワードの使用を継続できる最大日数、猶予ログインの数、残っている猶予ログインの数、パスワードの有効期限。</p>
ログインしていないユーザ	<p>最低 90 日間はログインしていないユーザの名前、ユーザの他の名前 (非公式の名前)、最終ログイン日時。</p>
パスワードの有効期限が切れているユーザ	<p>パスワードの有効期限が切れているユーザの名前、ユーザの他の名前 (非公式の名前)、パスワードの有効期限、最終ログイン日時。</p>

レポート	オブジェクトごとに提供される情報
複数のワークステーションからログインしているユーザ	複数のワークステーションからログインしているユーザの名前、ユーザの他の名前 (非公式の名前)、ユーザがログインに使用しているワークステーションの数、それらのワークステーションのネットワークアドレス。

eDirectory ユーザおよびグループレポート

このレポートカタログに含まれているレポートフォームを使用すると、eDirectory ツリーのユーザ、グループ、および職種に関するレポートを生成できます。次の表は、ユーザーおよびグループレポートについてまとめたものです。

レポート	オブジェクトごとに提供される情報
ユーザ連絡先リスト	ユーザ名、名、姓、電話番号、電子メールアドレス、住所
重複するユーザ名	重複するユーザ名、その名前を持つユーザの数、各ユーザの姓名、各ユーザの状況
グループメンバーシップ	グループ名、グループに関する一般的な情報 (所有者、説明、場所、部署、および組織)、グループのメンバーのリスト
職種	職種名、説明、担当者のリスト、明示的にその職種の同等セキュリティとなっている他のオブジェクトのリスト
ユーザ情報	ユーザ名、名、姓、従業員 ID、説明、場所、部署
ユーザログインスクリプト	ユーザ名、ユーザの他の名前 (非公式の名前)、ユーザの説明、ユーザのログインスクリプトの内容

レポート機能の設定

次の表で説明するように、レポート機能の設定は、生成するレポートの種類によって異なります。この表の後に、レポート機能を設定するための手順を示します。

重要: レポート機能が正しく動作するのは、最低でも 128MB の RAM を搭載した Windows コンピュータで ConsoleOne を実行する場合だけです。NetWare、Linux、Solaris または Tru64 で ConsoleOne を実行しているときには、レポート機能は動作しません。レポート生成の対象となる eDirectory ツリーには、レポートカタログファイルをインストールできる NetWare ボリュームが含まれている必要があります。eDirectory ツリーに NetWare サーバが含まれていない場合は、ConsoleOne でレポート機能を設定することはできません。

生成するレポート	設定手順
最小限のカスタマイズを施した Novell 定義 eDirectory レポート	<ol style="list-style-type: none"> 1. eDirectory ツリーのスキーマ拡張機能であるレポートサービスをインストールします。 2. eDirectory ツリーに Novell 定義レポートカタログをインストールします。 3. レポートの生成に使用する各 Windows コンピュータに、eDirectory 向けの ODBC ドライバをインストールし、目的のデータソースを設定します。
他の製品 (ZENworks など) に用意されているレポート	レポートが用意されている製品のマニュアルを参照してください。
ゼロから設計した独自のレポート	<ol style="list-style-type: none"> 1. すでに説明した Novell 定義 eDirectory レポートを生成するための手順を実行します。 2. 119 ページの「独自のレポートの設計」の説明に従って、ConsoleOne に JReport Designer を追加します。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 114 ページの「スキーマ拡張機能であるレポートサービスをインストールする」
- ◆ 115 ページの「Novell 定義レポートカタログをインストールする」
- ◆ 115 ページの「Windows コンピュータに eDirectory 向けの ODBC ドライバをインストールする」
- ◆ 116 ページの「レポートカタログで使用されるデータソースを設定する」

スキーマ拡張機能であるレポートサービスをインストールする

- 1 eDirectory ツリーの任意の場所をクリックします。
- 2 [ツール] > [インストール] の順にクリックします。
- 3 ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。
2 番目の画面で [レポートサービス] を選択します。ウィザードの各段階で、[ヘルプ] が利用できます。

Novell 定義レポートカタログをインストールする

- 1 レポートカタログオブジェクトを配置するコンテナを選択します。
ヒント: レポートカタログオブジェクトを配置するコンテナはいくつでも選択できます。これにより、さまざまな組織または部署が独自にレポート機能を設定できます。
- 2 [ツール] > [Novell 定義レポートのインストール] の順にクリックします。
- 3 インストールするレポートカタログと、それに関連付けられたカタログファイルの格納場所を選択します。
Novell 定義レポートカタログについては、**110 ページの「用意されているレポート」**を参照してください。
カタログファイルの格納場所を選択する方法の詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 4 [インストール] をクリックします。

Windows コンピュータに eDirectory 向けの ODBC ドライバをインストールする

- 1 ConsoleOne が Windows コンピュータ上にローカルでインストールされていない場合は、Windows のエクスプローラで、ConsoleOne がインストールされているリモートサーバボリュームを表すマップまたは共有ドライブを検索します。
ConsoleOne がローカルでインストールされている場合は、この手順をスキップします。
- 2 ConsoleOne がインストールされているフォルダを参照します。
デフォルトでは、次のフォルダになります。

Windows	C:\¥NOVELL¥CONSOLEONE¥1.2
NetWare	SYS:PUBLIC¥MGMT¥CONSOLEONE¥1.2
- 3 ¥REPORTING¥BIN サブフォルダにある ODBC.EXE をダブルクリックします。
- 4 ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。

レポートカタログで使用されるデータソースを設定する

- 1 Windows コントロールパネルで、[ODBC] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [ユーザー DSN] タブで、[追加] をクリックします。使用する ODBC ドライバを選択し、[完了] をクリックします。

データソースとして eDirectory を使用する場合は、[Novell ODBC Driver for NDS] を選択します。Novell 定義 eDirectory レポートカタログには、この ODBC ドライバが必要です。
- 3 データソースセットアップ用ダイアログボックスで、データソース名と、自分のレポート生成システムに必要なその他の情報を入力し、[OK] をクリックします。

データソース名は、レポートカタログに指定されているデータソースと一致している必要があります。Novell 定義 eDirectory レポートカタログの場合は、ダイアログボックスでデータソース名として「NDS レポーティング」と入力し、他のフィールドには何も入力しません (Novell 定義 NDS レポートカタログでは、他のフィールドは無視されます)。
- 4 [OK] をクリックします。

レポートの生成、印刷、および保存

113 ページの「レポート機能の設定」の説明に従ってレポート機能を設定したら、レポートに関して次に説明するような作業を実行できます。これらの作業では、Novell 定義レポートカタログか、独自に設計したレポートカタログのどちらかを使用できます。

最初に取り上げた作業を実行できるのは、データソースとして Novell 定義 NDS レポーティングを使用するレポートカタログを利用している場合だけです。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 117 ページの「レポート生成の対象となる eDirectory ツリーの要素 (コンテキスト) を指定する」
- ◆ 117 ページの「レポートを生成および表示する」
- ◆ 117 ページの「レポートを印刷する」
- ◆ 118 ページの「レポートを保存する」
- ◆ 118 ページの「レポートをエクスポートする」
- ◆ 118 ページの「以前に保存したレポートを表示する」

- ◆ 118 ページの「レポートの生成に使用するデータ選択条件(クエリ)をカスタマイズする」

レポート生成の対象となる eDirectory ツリーの要素(コンテキスト)を指定する

- 1 レポートの生成に使用するレポートカタログオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [識別] ページで、[レポートコンテキスト] フィールドの横にある [参照] ボタンをクリックします。レポートコンテキストの最上位になる eDirectory コンテナを選択し、[OK] をクリックします。
目的のツリーオブジェクトを選択して、そのツリー全体に関するレポートを生成します(これはデフォルトの動作です)。選択したコンテナの下にあるすべてのオブジェクトがレポートに含まれます。
- 3 [プロパティ] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
設定したレポートコンテキストは、これと同じ手順を行ってコンテキストに変更を加えない限り、このレポートカタログを使用して生成されるすべてのレポートに対して有効です。

レポートを生成および表示する

- 1 使用するレポートフォームが含まれているレポートカタログオブジェクトを右クリックし、[レポート生成] をクリックします。
- 2 使用するレポートフォームとレポートクエリを選択します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 3 [OK] をクリックします。
レポートの生成中、ステータスボックスが表示されます。レポートの生成が完了すると、そのレポートが [レポートの表示] ウィンドウに表示されます(この表示にはしばらく時間がかかる場合があります)。レポートが表示されたら、次の説明に従ってそのレポートを印刷、保存、またはエクスポートできます。

レポートを印刷する

- 1 先に説明した手順に従ってレポートを生成します。
- 2 [レポートの表示] ウィンドウのツールバーにある [印刷] ボタンをクリックします。
- 3 目的の印刷オプションを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

レポートを保存する

- 1 先に説明した手順に従ってレポートを生成します。
- 2 [レポートの表示] ウィンドウのツールバーにある [保存] ボタンをクリックします。
- 3 レポートの名前を入力するか、以前に保存したレポートを選択して上書きします。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 4 [保存] をクリックします。

レポートをエクスポートする

- 1 先に説明した手順に従ってレポートを生成します。
- 2 [レポートの表示] ウィンドウのツールバーにある [レポートのエクスポート] ボタンをクリックします。
- 3 エクスポートするファイル名、パス、および形式を選択します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 4 [OK] をクリックします。

以前に保存したレポートを表示する

- 1 レポートの生成に使用したレポートカタログオブジェクトを右クリックし、[レポートを開く] をクリックします。
- 2 レポートの生成に使用したフォームを選択します。
- 3 [使用可能なレポート] で、目的のレポートを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

レポートの生成に使用するデータ選択条件 (クエリ) をカスタマイズする

- 1 レポートの生成に使用するレポートカタログオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [クエリ] ページで、レポートの生成に使用するフォームを選択します。
- 3 [使用可能なクエリ] の下のリストに何が表示されているかに応じて、適切な操作を実行します。

使用可能なクエリ	操作
デフォルトのクエリだけが表示されている	[追加] をクリックします。 注: このページでデフォルトのクエリをカスタマイズすることはできません。デフォルトのクエリをカスタマイズするには、 119 ページの「独自のレポートの設計」 を参照してください。
デフォルト以外のクエリも表示されている	カスタマイズするクエリを選択し、[開く] をクリックします。

- クエリ作成用のダイアログボックスで、レポートの生成に使用するデータ選択条件を指定します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- (オプション) [レポートの生成] をクリックすると、指定した選択条件に基づいて直ちにレポートを生成できます。
レポートの表示を終えたら、[レポートの表示] ウィンドウを閉じます。必要に応じて、クエリにさらに変更を加えます。
- 必要なデータ選択条件をすべて指定したら、クエリ作成用のダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

独自のレポートの設計

独自のレポートを設計するには、一般的なレポート機能を設定し ([113 ページの「レポート機能の設定」](#)を参照)、レポートの設計に使用する ConsoleOne に JReport Designer(別売り) を追加しておく必要があります。これらの作業が済めば、独自のレポートカタログとレポートフォームを作成できます。

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ [120 ページの「ConsoleOne に JReport Designer を追加する」](#)
- ◆ [120 ページの「独自のレポートカタログを作成する」](#)
- ◆ [121 ページの「レポートフォームを作成または変更する」](#)

ConsoleOne に JReport Designer を追加する

- 1 ConsoleOne がインストールされた Windows コンピュータまたは ConsoleOne がインストールされた NetWare サーバにマップされたドライブのある Windows コンピュータ上で、Web ブラウザを起動し、Novell® Software Downloads のページ (<http://download.novell.com/sdMain.jsp>) または無償製品のダウンロード (<http://download.novell.co.jp/index.html>) にアクセスします。
- 2 JReport Designer へのリンクを探し、クリックします。
Jinfonet Web サイトで、JReport Designer for Novell Reporting Services というパッケージをダウンロードします。このパッケージは、JReport Designer ツールを ConsoleOne と統合するためのものです。JReport Designer リンクを見つけることができない場合は、後でもう一度 ConsoleOne サイトを調べてください。このガイドの作成時点では、JReport Designer を入手できる日程は決まっています。
- 3 Jinfonet Web サイトの指示に従って、JReport Designer for Novell Reporting Services セットアッププログラム (DESIGNER.EXE または SETUP.EXE) をダウンロードし、実行します。
- 4 セットアッププログラムの指示に従ってセットアップを完了します。インストール先のディレクトリを指定するように求められたら、ConsoleOne のインストール先を選択します。
デフォルトでは、次のフォルダになります。

ローカルドライブ C:¥NOVELL¥CONSOLEONE¥1.2

ネットワーク
ドライブ SYS:PUBLIC¥MGMT¥CONSOLEONE¥1.2

独自のレポートカタログを作成する

- 1 レポートカタログオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規作成] > [オブジェクト] の順にクリックします。
- 2 [クラス] で、レポートカタログを選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [名前] に、新規のレポートカタログオブジェクトの名前を入力します。
eDirectory 命名規定に従って正確に名前を入力します (詳細については、『Novell eDirectory 管理ガイド』の「命名規定」を参照してください) 。

例: 独自の XYZ レポート

- 4 レポートカタログに関連付けられたファイルの格納場所を選択し、レポートカタログで使用するデータソースを選択します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [テーブルの追加] ダイアログボックスで、レポートフォームから問い合わせるデータベーステーブルを選択し、[追加] をクリックします。
必要に応じてこの操作を繰り返します。
データソースとして Novell 定義 NDS レポートティングを使用している場合は、ほとんどのデータベーステーブルが eDirectory オブジェクトクラスに対応しています。
- 7 [テーブルの追加] ダイアログボックスの [完了] をクリックします。
- 8 次に説明する手順に従って、カタログのレポートフォームを作成します。

レポートフォームを作成または変更する

- 1 レポートフォームが含まれている (または含まれることになる) レポートカタログオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [フォーム] ページで、目的のレポートフォームを作成または変更します。
詳細については、[ヘルプ] をクリックしてください。
[フォーム] ページで [新規] または [開く] をクリックすると、JReport Designer が起動します。このツールの使用方法については、[JReport User's Guide \(http://www.jinfont.com/help/index.htm\)](http://www.jinfont.com/help/index.htm) または <http://support-j.novell.co.jp> (日本語サイト) を参照してください。

10

トラブルシューティング

この章では、ConsoleOne™ のセットアップ時または使用時に発生する可能性がある問題の解決方法について説明します。ここで説明する情報で問題が解決しない場合は、次の問い合わせ先に連絡してください。

問い合わせ先	入手できる情報
Novell Support サイト (http://support.novell.com/) または http://support-j.novell.co.jp/ 、またはソフトウェアの購入先	無料のテクニカルサポート
1-800-NETWARE	ダイレクトで有料の Novell® テクニカルサポート
Novell Software Downloads サイト (http://download.novell.com/sdMain.jsp/)	ConsoleOne の最新版

この章では、次の項目について説明します。

- ◆ 124 ページの「ConsoleOne が誤動作する、または起動しない」
- ◆ 125 ページの「パフォーマンスが低い」
- ◆ 125 ページの「完全にローカルでインストールしたい」
- ◆ 125 ページの「ログインしたい eDirectory ツリーが見つからない」
- ◆ 125 ページの「新規作成したユーザがログインできない」
- ◆ 126 ページの「ボリュームオブジェクトまたはディレクトリマップオブジェクトを作成できない」
- ◆ 126 ページの「パーティション操作を中止できない」
- ◆ 126 ページの「レポートの生成時に発生する問題」

- ◆ 127 ページの「フィールドまたはオプションが使用不能になっている」
- ◆ 127 ページの「既知の不具合と制限事項」

ConsoleOne が誤動作する、または起動しない

考えられる原因	解決方法
ConsoleOne を起動している Windows コンピュータに、必要なドライブマッピングまたは Novell クライアントソフトウェアがない。	19 ページの「Windows」に指定されているシステム要件を満たし、ドライブマッピングが設定されていることを確認します。
ConsoleOne を起動している NetWare® サーバに、NJCL 2 が正しくインストールされていない。	NetWare サーバの SYS:JAVA から ¥NJCLV2 フォルダを削除し、ConsoleOne を再インストールします。NJCL 2 が NetWare サーバに新たにインストールされるので、ConsoleOne が正しく機能するようになります。
ConsoleOne を起動している Linux または Solaris コンピュータに、正しい Java ランタイム環境 (JRE) がない。	<p>ConsoleOne のインストール中に JRE をインストールせず、既存の JRE が 24 ページの「Linux のシステム要件」または 26 ページの「Solaris のシステム要件」で指定されたものでない場合、システムプロンプトで「c1-install -c jre」と入力して、バンドルされた JRE を ConsoleOne に追加できます。上記以外の JRE を使用する場合は、JRE_HOME または C1_JRE_HOME 環境変数をその JRE のある場所に設定してください。ConsoleOne により、どの JRE を使用するかが次のように決定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ C1_JRE_HOME を指定した場合、その JRE が使用されます。 ◆ ConsoleOne にバンドルされた JRE がある場合、その JRE が使用されます。 ◆ JRE_HOME を指定した場合、その JRE が使用されます。 ◆ 上記のすべてが当てはまらない場合、エラーメッセージが表示され、ConsoleOne は終了します。
X ターミナルセッションを通してリモートで ConsoleOne を起動しようとしているコンピュータに、X ウィンドウのサブシステムが備わっていない。	ConsoleOne を Linux または Solaris コンピュータにインストールし、X ターミナルセッションを通してリモートで ConsoleOne を実行しようとしている場合は、ターミナルセッションを実行中のコンピュータに、X ウィンドウのサブシステムをインストールする必要があります。リモートホストからの送信を許可し、ローカルの X ウィンドウのサブシステムを表示用に使用できるように X ターミナルセッションを設定します。

パフォーマンスが低い

考えられる原因	解決方法
RAM が不足している場合に頻繁に発生する。メモリ不足のため、ConsoleOne の処理速度が次第に低下していきます。	18 ページの「 ConsoleOne のインストールと起動 」で推奨されているシステム構成で ConsoleOne が実行されていることを確認します。パフォーマンスの向上には、RAM の増設が最も効果的です。特にレポートを生成する場合に、その効果が顕著に現れます。ConsoleOne を長時間実行し続けている場合は、再起動することをお勧めします。

完全にローカルでインストールしたい

考えられる原因	解決方法
大型ソフトウェアの中には、ハードディスクに ConsoleOne をローカルでインストールできないものもある。	18 ページの「 ConsoleOne のインストールと起動 」を参照してください。インストール時に、ローカルドライブを選択します。

ログインしたい eDirectory ツリーが見つからない

考えられる原因	解決方法
ネットワークを表示しているサーバで、すべてのツリーを表示できない。	Windows で ConsoleOne を実行している場合は、別のサーバを NetWare 接続のプライマリサーバとして設定します (Windows タスクバーの赤色の N を参照してください)。次に、ConsoleOne でツリーのリストを再表示します。

新規作成したユーザがログインできない

考えられる原因	解決方法
ユーザオブジェクトの作成時に [パスワードの設定] ダイアログボックスをキャンセルした場合、オブジェクトとキーの組み合わせ (eDirectory パスワード) がユーザアカウント向けに作成されない。	そのユーザオブジェクトの [パスワード制限] プロパティページを開き、[パスワードの変更] をクリックしてオブジェクトとキーの組み合わせ (eDirectory パスワード) を作成します。

ボリュームオブジェクトまたはディレクトリマップオブジェクトを作成できない

考えられる原因	解決方法
ボリュームオブジェクトまたはディレクトリマップオブジェクトを作成しようとしている eDirectory ツリーに、NetWare サーバが含まれていない。	ツリーに NetWare ボリュームのホストとなる NetWare サーバが含まれていなければ、そのツリーにボリュームオブジェクトまたはディレクトリマップオブジェクトを作成することはできません。 注：現在のツリーから他のツリーの NetWare ファイルシステムにアクセスできるようにするには、他のツリーの NetWare サーバおよび NetWare ボリュームを指す NetWare サーバオブジェクトおよび NetWare ボリュームオブジェクトを現在のツリーに作成します。NetWare サーバオブジェクトは、ボリュームオブジェクトまたはディレクトリマップオブジェクトよりも先に作成する必要があります。

パーティション操作を中止できない

原因	解決方法
ConsoleOne には、別の管理者が開始したパーティション操作を中止する機能がまだない。	従来のツールである NDS [®] Manager を使用します。

レポートの生成時に発生する問題

考えられる原因	解決方法
RAM が不足している	大規模なレポートの生成には、多量のメモリを要する場合があります。レポートの生成に使用する Windows コンピュータには、最低でも 128MB の RAM を搭載しておく必要があります。
レポートカタログが破損している	そのレポートカタログオブジェクトを削除し、作成し直します。その後もう一度レポートを生成してみます。レポートカタログオブジェクトを作成するには、レポートカタログファイルのインストール先となる NetWare ボリュームが eDirectory ツリーに含まれている必要があります。
必要なレポート機能の設定を完了していない可能性がある	113 ページの「 レポート機能の設定 」を参照してください。

フィールドまたはオプションが使用不能になっている

考えられる原因	解決方法
他の設定を先に変更しなければ、そのフィールドまたはオプションが使用可能にならない場合がある。	特定のフィールドおよびオプションの使用方法については、[ヘルプ] をクリックしてください。
その情報を利用するための権利、またはそのフィールドまたはオプションに関連付けられた操作を実行するための権利を持っていない可能性がある。	そのフィールドまたはオプションに関連付けられた eDirectory プロパティに対する有効な権利を調べます (61 ページの「有効な権利の表示」を参照してください)。必要に応じて、ネットワーク管理者に問い合わせ、必要な権利を取得します。

既知の不具合と制限事項

このリリースの ConsoleOne に関する既知の不具合と制限事項は、次のとおりです。将来のリリースでは、これらの制限のほとんどが解決される予定です。

不具合または制限事項	応急措置
eDirectory の検索が、最初の 1,200 個のオブジェクトしか返さない。	これ以上のオブジェクトが返されるような検索を実行する場合は、返されるオブジェクトが少なくなるように検索条件を調整します。
リストに 1,000 個を超えるオブジェクトがある場合、右側の画面のオブジェクトにその名前を入力してジャンプしようとしても、できない。	[編集] > [検索] を使用してオブジェクトを検索するか、[表示] > [フィルタ] を使用して他のオブジェクトタイプを非表示にしてからオブジェクト名を入力します。
1,000 個を超えるオブジェクトがあるリストから多数の eDirectory オブジェクトを選択しようとしても、できない (ConsoleOne は、eDirectory からチャンク単位でオブジェクトのリストを取得します。表示されていないチャンクにあるオブジェクトを選択することはできません)。	1 度に選択するオブジェクトの数を少なくし、目的の作業の完了に必要な回数だけ操作を繰り返します。
複数の値を取る eDirectory のプロパティに変更を加えようとしても、合計データサイズが 48KB を超える場合に変更できない。たとえば、メンバーシップリストから 1,000 個のユーザ名を削除する場合、ユーザ名の平均の長さが 24 文字であるとする、この操作には約 48KB が必要になります (1 文字は 2 バイトです)。	変更を加えるチャンクのサイズを小さくします。

不具合または制限事項	応急措置
右側の画面の eDirectory オブジェクトの数 (右下隅に表示) が、1,000 を超える場合に概算値になる。	1,000 個を超えるオブジェクトを扱う作業で、正確なオブジェクト数を必要とする場合は、NetWare アドミニストレータを使用します。
複数の値を取る eDirectory プロパティの値が、値の数が多すぎて ConsoleOne で利用可能な RAM に収まらない場合にすべて表示されるとは限らない。	利用可能な RAM の容量を増やし (他のプログラムをすべて閉じてみてください)、リストを再表示します。現時点の eDirectory は、1 度にすべてのプロパティ値を ConsoleOne に返します。将来のリリースの eDirectory は、チャンク単位でプロパティ値を返すようになります。
リストのプロパティ名が、常に英語で表示される (ConsoleOne は、英語表示の eDirectory スキーマから直接プロパティ名を読み込むためです)。	これが原因で作業を完了できない場合は、Novell の Web サイトで、機能拡張要求を送信してください。現時点では、NetWare アドミニストレータを使用して作業を完了します。
NSS ボリュームで、ユーザのボリュームスペースまたはフォルダの容量を制限しようとしても、できない。	NSS ボリュームに対して容量を制限する機能は、将来のリリースで追加する予定です。この機能は、NetWare アドミニストレータにもありません。
Windows* 以外のコンピュータで ConsoleOne を実行している場合、レポートを生成および印刷しようとしてもできない。	最低でも 128MB の RAM が搭載されている Windows コンピュータで ConsoleOne を実行します。
ConsoleOne ビューに加えた変更のほとんどが、セッション間で保存されない。唯一の例外は、オブジェクトプロパティページに加えた変更 (ページの並べ替えや非表示など) です。この変更だけは保存されます。	詳細については、 44 ページの「ビューのカスタマイズ」 を参照してください。
Linux で ConsoleOne を実行している場合、1 度に 2 つしか値が複数値フィールドに入力できない。	これは Linux での Java の性能にとって問題であるため、将来のリリースでは解決する予定です。現時点では、数値を 2 つ入力したらプロパティを一旦閉じ、再び開いた後、さらにもう 2 つ数値を入力し、これを繰り返す必要があります。
Solaris 上で ConsoleOne を実行している場合、Netscape がインストールされておらず、システムの PATH 環境変数に Netscape へのパスが追加されていないと、Web ブラウザでリンクやメニューオプションをクリックしても、URL へのアクセスに失敗する。	Netscape をインストールし、Netscape の実行可能ファイルが存在するディレクトリをシステムの PATH 環境変数に追加してください。